浅野誠

出会い・集い

２００７～２０１５年

２０１６年６月編集発行

２００４年に、現住所の沖縄県南城市玉城に住み始めて、満１２年になろうとしているが、２００７年からブログを始めて、出会い・集いのカテゴリーで、多くの記事を発信してきた。それらを編集して、このようなものを作成した。

「自然と人々とつながる田舎暮らし」を愛称にしてきた私たちの暮らしの一端をまとめた感じになった。

なお、ここに収録してよい記事ではあるが、すでに以下のものに収録済のものは省いてある。関心のあるかたは、そちらもご覧ください。

・浅野誠エッセイシリーズ「音楽芸能・美術工芸」２００７～２０１３、
・シリーズ南城物語２　南城の芸能・工芸・芸術
・シリーズ南城物語５　南城を盛り上げる

また、２０１２年以降については、今後発行予定の「沖縄」「南城・玉城」などに掲載するものもある。

写真は、２０１３年２月２４日撮影。

目次

２００７年　７ページ

中山海岸清掃	２月２５日
夕食会	２月２７日
磯崎主佳さんの絵　見に行く	３月５日
私に「癒し」を感じる？	３月１１日
留守中の卒業生の訪問	３月１１日
「島や宝」（第二回）の相談会	３月１５日
超おもしろい話題ばかり　たまぐすくユンタク	３月１７日
玻名城律子ホームコンサート	３月２２日
歌手と小鳥のかけあい　サラダ・ハーブティ　コンサート余話	３月２２日
海楽	４月２日
ラジオで語る　『沖縄田舎暮らし』	４月６日
『沖縄　田舎暮らし』表紙を見た若い女性二人の訪問	４月８日
集落・子どものこと　第６回たまぐすくユンタク	４月２１日
「島や宝」　盛り上がる	４月２６日
たまぐすくユンタク	５月２０日
大縄跳び	５月２２日
中山合唱団発表　中山豊年祭	５月２８日
奥武ハーリー	６月１８日
キジムナーフェスタ	７月２８日
「南城移動ユンタク会」のご案内	７月５日
南高梅の原産地　南部訪問	７月４日
移住計画中の方々など	８月１０日
親子二代のつきあい	９月１６日
南城移動ユンタク　　佐敷つきしろ	９月２９日
『教科書検定』県民集会	９月２９日
県民集会に参加した人々と交通手段	１０月１日
ゆんたく会　三木さん宅　海岸清掃余話	１０月２８日
なつかしい出会いの連続	１１月１１日
ニューカレドニアの訪問団との交流	１１月１４日
今年最後の海岸清掃と飲み会	１２月３０日

２００８年　２１ページ

びんがー新年会	１月４日
中山合唱団　発表会に向けて「猛？練習」	１月９日

中山合唱団　次の企画へ　２月５日
中山、体育行事結団式　２月２４日
ブログなんくるないさの主人　３月３日
若者の将来創造研究会、終える　３月９日
福島の大学生の訪問　３月１３日
シュガーホールの偉大な創造　中村透学位論文を読む　３月２２日
卒業生の新婚旅行訪問　３月２４日
ホタルの国から　３月２６日
ヒージャー会　３月２９日
クモ貝　３月２９日
戦没画学生の作品展示　　無言館と沖縄県立美術館　５月２３日
中山豊年祭　５月２５日
キジムナーフェスタ　ドラマ教育　私はでるの？でないの？　６月１８日
週末は突然訪問の方が多い　６月２３日
半島芸術祭 in 南城　６月３０日
外間信太郎スプレーアート　７月１９日
トータルプロのギャラリー　７月１９日
綱引きと飲み会　７月２７日
くんなとぅ１０周年　７月２７日
中山子ども会バーベキュー　８月２３日
久しぶりの海岸清掃参加　８月３０日
ブイアートを抱く昔の卒業生　８月３１日
３０年近く前の卒業生と盛り上がる　９月７日
中山合唱団特訓風景　　隣家の犬も見学？　９月２９日
豊見城のカフェレスト『レガロ』オーナー訪問　我が家のハーブ　１１月２日
海岸清掃の「収穫」　１１月２９日
磯崎主佳絵本作り講座　１２月２日
縄文シンポ　　卒業生の黒住耐二さん活躍　１２月１４日

２００９年　　３４ページ

Spirit of Findhorn　スピリット・オブ・フィンドホーン in 沖縄　１月９日
「玉城ゆんたく」「南城移動ユンタク」再開　２月２日
修学旅行民泊受け入れ　２月４日
ブーゲンビリアのなかのイアン　生け花を見るロージー　２月６日
フィンドホーンのワークショップ　２月７日
久高海岸アダンの下でお昼寝　２月７日
久高海岸の霊石　２月７日
ワークショップ中心の花とろうそく　２月７日
日の出を見る　２月８日
フィンドホーン・ワークショップ終了　２月９日

ワークショップを平和のちからに	２月２１日
長男と伴走してくれた方と３２年ぶりの再会	２月２４日
福島大学生卒業旅行	３月３日
名桜大学教職学生がインタヴュー	３月３日
修学旅行民泊受け入れ…入村式	４月２２日
笑顔の素敵な４人	４月２２日
はじめての民泊体験　　二日間	４月２３日
民泊のプラス	４月２３日
民泊反省会	４月２８日
民泊中学生からいただき手紙など	５月１日
紅型体験	４月２８日
愛媛で卒業生と語らう	６月１日
卓球大会で卒業生に会う	６月１４日
５０代に入りかけた卒業生たちの九州からの電話	６月２１日
沖縄子ども研究会中西新太郎講演	７月１２日
中国茶・中国音楽のワークショップ	８月７日
キジムナーフェスタを見に行く	８月９日
すごいチームぶりと南国風の「雪の女王」	８月１０日
３７－３８年ぶりの方々との出会い	８月１４日
２８年前の卒業生と研究仲間と飲む	８月２２日
私の卒業生たち	９月１日
２０年ぶりに語り合う	１０月１０日
梅原龍・千恵結婚パーティー	１１月７日
千葉大学一行、花野果村にて、サトウキビをかじる	１１月３０日
キュービック・カラーセラピー	１２月１８日

２０１０年　　４９ページ

にこにこ健康会のウォーキング	１月９日
奥武竜宮から久高を見る卒業生	１月１１日
カラーセラピスト山内暢子さんと生徒さんたち	４月８日
具志堅侃高体連新会長は、私の学生、私の卓球の先生だった	４月１５日
子どもを守る文化会議沖縄集会の反省会	４月１７日
「アフリカの風」開始前…木創舎にて	５月２６日
未だ味わったことのない料理の連続…近所の料理専門家のご招待	６月２０日
２５年前の卒業生数名と子どもたちが突然の来訪	８月２２日
沖縄調査に来た高校生のインタビュー	８月２３日
加藤彰彦さんと私・・・野本三吉「沖縄・戦後子ども史」を読む	１１月１８日
「知られざる日本の国境」準備の山上さんと「うどい」の平良さん	１２月７日

２０１１年　　５４ページ

旧友の沖縄訪問　１月３日
新郎新婦両親揃ってのかぎゃで風で始まる源さんの披露宴　１月８日
源さんたちの創造的な結婚披露宴・・・私の結婚式論１　１月１０日
源さんたちの創造的な結婚披露宴・・・私の結婚式論２　１月１１日
松川の寿司屋「きさらぎ」とご夫妻　２月８日
小波津団地の懐かしい子どもたちも、いまやお母さん　２月１０日
来客に、我が家産のハーブと薬草ミックスを差し上げる　２月１９日
平川良栄　出版と古希を祝う集い　６月５日
中山豊年祭　中山合唱団「上を向いて歩こう」を沖縄語で歌う　６月１２日
高校修学旅行民泊　夕陽を見る　海岸でブイサッカー　６月２４日
修学旅行民泊２　奥武島龍宮　６月２４日
ハーブ・ゆんたく　７月１５日
３０年ぶり　蛍・自然環境とともに　佐藤文保さん　７月１１日
夕食会と再会　７月１６日
さしきスポレク卓球クラブ飲み会　７月１７日
民泊いろいろ　学校によりけり　７月２０日
パスタゆんたく　８月１９日　７月２９日
霧多布の写真家　大坪俊裕さんの写真　ＮＨＫテレビに登場　８月５日
「移住者ゆんたく」の案内　８月９日
パスタゆんたく　贅沢な料理の連続　８月１９日
震災避難移住も　移住者ゆんたくに２０人以上集まる　８月２８日
田港朝昭先生の突然の元気な来宅　９月２３日
ドラゴンフルーツ、サトウキビ、やどかり　民泊高校生　１０月２０日
ヤドカリ　砂絵描き　夕陽　三線鑑賞　民泊第二陣　１０月２４日
懐かしい方々との再会　西原町史出版祝賀会　１２月１１日

２０１２年　６９ページ

「また沖縄行きたいっす！」　民泊高校生からの手紙　１月７日
放射能を避けての避難者たちが訪問　２月１４日
ブログを通しての２０～３０年ぶりの再会　２月２０日

２０１３年　７２ページ

豊かな出会いの正月　正月風景　１月５日
安座間のじょーＧ　幼稚園生と海岸散歩　南城学童研修　１月１９日
１２種のハーブティーを楽しんだお茶会　３月１８日
出会い　このごろの私　６月８日
沖縄教育史での新しいステージへの芽　我が家での研究会　７月１６日
等身大人形「勝連のおばあ」　話しかけるのが好きな私　８月５日
ユンタクお茶会　８月２８日

すごく気楽でとびっきりやさしいオーケストラ鑑賞入門塾　シュガーホールにて　１０月２０日
半島芸術祭 in 南城　１１月２２日
仲村一夫さん宅 山川晃さん宅 南城市オープンガーデン１　１１月２７日
志喜屋新孝さん宅　瀬底真守さん宅　新垣嗣亀さん宅　南城市オープンガーデン２　１１月２９日
新垣嗣亀さん宅（続）　伊集盛貞さん宅　大城勇さん宅　南城市オープンガーデン３　１１月３０日

２０１４年　８３ページ

東風平の古民家「懐かしい音楽と食事の店　言　ＧＥＮ」　２月１９日
スケジュールが込み合うこのごろ　３月２日
沖リハ言語聴覚学科謝恩会　難関を乗り越えた多世代卒業生　３月１１日
うん十年ぶりの旧友たちの訪問　久高訪問　３月１５日
来訪者が多いこのごろ　３月２４日
近藤ひろみさん新居でアフリカ音楽演奏会　３月３０日
平川節子さんのトシビー祝　６月１８日
看護大学学生の我が家と御嶽訪問　７月４日
台風襲来　訪問した海外からの家族の初体験　７月１０日
今週末の生活指導学会での沖縄関係者の発表一覧　８月２６日
いま、『協同』が創る２０１４年協同集会 in 沖縄　１０月２１日
西原時代の旧知の方の来訪　１２月２４日

２０１５年　９３ページ

加藤彰彦先生＆吉葉研司先生　トークセッション＆送別会　３月９日
沖リハ言語聴覚学科謝恩会　３月１０日
新人演奏会　沖展　保育所　卓球練習　来客　ここ数日のいろいろなこと　３月２５日
照屋盛豊さん宅　津波古義治さん宅　南城市オープンガーデン　４月１８日
スペインからの来客　４月２４日
ちょっぴり忙しくなってきたこのごろ　４月２９日
クラフトフェア南城　５月２日
結婚パーティ・ラッシュ　５月１０日
手作り感とドラマ性が溢れる結婚披露宴　８月１２日
いろいろな出会い　このごろの私　８月２４日

２００７年

中山海岸清掃　２月２５日

２４日、昨年１月から始まった中山海岸清掃の会。近所の７、８軒から１０人ぐらいが、朝７時から毎月最終土曜日に行ってきた。最初のころは大変なゴミの量だったが、このごろははじめのころの半分以下になり、海岸もずいぶんにきれいになってきた。ゴミは、釣り人や海岸で遊ぶ人の残したもの、海の向こうから流れ着いたものが多い。清掃の会への参加者が増え、もっと徹底的にきれいにできるようになるとうれしい。

３～４月になると、海岸で遊ぶ人、海の恵みをとる人が増えるので、ゴミが増えそうな気配だが、訪問者が美しさを大切にしてくださることを望む。海辺ではアーサが増えはじめ、緑色が日に日に濃くなってきている。

夕食会　２月２７日

２６日夜、近隣のご一家といっしょに夕食会。おいしいごちそうもちよりで訪問してくださった。我が家の野菜数種類をサラダにし、例の奥武島のテンプラなどを加えて、ちょっとしたパーティ。テンプラには、この時期だけのアーサテンプラもあった。私達の結婚式の時の「三つの誓い」のうちの一つは、「多くの人々と交流しあうオープンな家庭をつくります」だったことを思い出した。

我が家にはいろいろな方が訪問してくださる。「パーティ」を開始して１時間後、伊是名島での仕事帰りの山上さんとつれの方一名の訪問。伊是名みやげもパーティメニューに。おおいに盛り上がる。

磯崎主佳さんの絵　見に行く　３月５日

隣人の磯崎さんの絵が、南風原のリリーフォレストで展示されているとのことで、恵美子と見にいく。幸い磯崎さん本人もおられて１時間以上ユンタクする。磯崎さんの絵のドラマ的展開がわかる。今、新しいステップを切り開きつつあるなあ、と思う。磯崎さんの絵には、わかりやすいが、深い物語性を感じる。

リリーフォレストのあるところは、近くに住んでいたこともあって、３０年前よく通ったところである。池田ダムの近くだが、高速道路ができるなど大きく変化した。このお店も大変印象的である。私自身が数年前アロマにはまっていたこともあって、なつかしささえ感じる。お店の庭で、ボルドジンユを発見。猫除け効果もあるという話だ。

私に「癒し」を感じる？　３月１１日

昨晩の懇親会の席で、順番にひとこと発言の機会があり、私が話したあとで、「癒しを感じる」といわれてしまった。これで２回目である。そういわれていい気持ちではあるが、不思議な感じでもある。「ハーブを育てている」とか「ひげ」とかがそのイメージのきっかけになるらしい。

近くに３０年あまりのきわめてパワフルな友人がいたが、私も２０年以上前までは、かれと同様なパワフルな感じであったが、いつのまにか、「癒し」風になってしまったようだ。

さて、今日は、これから卓球の試合に行く。「癒し」では試合にならないので、往年のパワフルさを出したいとは思うが、卓球は、昔から「老獪」な「変な」スタイルである。このところ負け続きなので、久しぶり勝ってもみたいと思うが。

留守中の卒業生の訪問　３月１１日

卓球の試合が終わって帰宅すると、郵便箱に、卒業生のプレゼントとメモが入っていた。

２０数年前の卒業生で、卒業以降は会ってはいない。中学校で熱心な実践をするとともに、演劇などでも奮闘しているようだ。

会えなくて残念である。本土で生活している卒業生のこのような突然訪問ということが、時にある。みんな各地で活躍しているのだが、折りを見て、沖縄を再度訪問し、我が家を探してきてくださる、ということがある。とてもうれしい。

「島や宝」（第二回）の相談会　３月１５日

昨年大盛況だった「島や宝」のコンサートとユンタク会議を今年もやろうという話が持ち上がり、その相談会が今夕宮本亜門さん宅であり、参加してきた。

環境問題の重要性を訴えるだけでなく、その先どうするかということにかかわる討論とコンサートにしていこうという方向がでてきた。それは当然「島おこし」「沖縄起こし」につながることである。そんな角度から、私も発言した。

興味深いディスカッションとコンサートになりそうである。昨年同様、ビッグなメンバーによるステージにもなりそうである。４月２５日の予定である。興味ある方は日程をとっておくとよいでしょう。

相談会には環境問題だけでなく、イベント企画の専門家も参加したが、珍しい専門用語にも出会う。多様な分野の方々と話すのは楽しい。この地域に住んでいると、実に多様な方々との出会いが日常的にある。とくに、芸術文化の方々との出会いは、私をずいぶんに豊かにしてくれている。

超おもしろい話題ばかり　たまぐすくユンタク　３月１７日

１６日我が家であった会には、じつに多種多様な職業・世代・人生経験のある人、超有名人から超無名人まで集まって、ユンタクに花開いた。

話題になったことを並べておこう。

１）東御廻りには、多様なポイントやコースがある。王家コースだけではない。

２）拝所には、じつに多様な由来がある。最近「おじぃ」がつくったものまである。

３）海を越えてまでつながる多様な交流のなかに、今のいろいろな集落がある。そこに言葉の違いまである。

４）農業経営と環境保全の両立の課題に取り組むこと

玻名城律子ホームコンサート　　３月２２日

２１日夕方、我が家の一階セミナールームで開かれたコンサートには近隣の方２０名が集まった。

歌手と聴衆がすぐ近くでのコンサートは民謡などではあるが、クラシックでは珍しいようだ。でも、２００年ほど前のモーツァルトの時代では当たり前のことだった。

近いので、双方とも最初は緊張気味だったが、だんだん親しみを感じ、かけあい的な雰囲気まで生まれてきた。曲目は、親しみのある曲、最後には「なりやまあやぐ」「トバラーマ」まで含まれて、聴衆は大感動のしどおしだった。

こんなコンサートはいいね、ということで、この近隣でもくりかえしもちたいとの声があがっている。

終了後は、歌手も含めてみんなでの懇親会が夜まで続いた。

歌手と小鳥のかけあい　サラダ・ハーブティ　コンサート余話　　３月２２日

昨日のコンサートでのこと。歌手と小鳥のかけあいといえるような場面が何回もあった。歌の合間の小鳥のさえずりは見事なタイミングで、思わぬ飛び入りとなった。小鳥たちも春の恋の季節で、このごろ盛んにさえずるが、人間の歌とかけあうなんて、と思ってしまう。

コンサートの後の懇親会に、我が菜園でできたサラダ菜、レタス、チマサンチュ、イタリアンパセリ、パセリ、トマト、サラダバーネット、セロリ・・・といったものを、隣人の女性がアレンジしてサラダとして出した。大変好評で、残ったものもすべてみなさんが持ち帰られた。新鮮な無農薬有機栽培はおいしいということだ。

同じように、ハーブティのミックスを、リフレッシュとリラックスの二種類で出したところ、大好評である。すっかり我が家の来客へのもてなしの定番になってしまった。以前はコーヒーが定番であったが、今はコーヒー

は少しだけ出すことにとどまっている。

海楽　　４月２日

宮古からもどってすぐに海楽に行く。玉城焼のみなさんに、「沖縄田舎暮らし」の出店をお願いしていたからだ。今年もたくさんの人出である。出店のみなさんの大半は知り合いの方々である。かなり多様な出店で、普通の地域のお祭り以上だと思う。コンサートもなかなかのものである。地元の知人の音楽家の実力が予想以上のプロであることを知る。ここに住んでいると、芸術の力量よりも近所の親しい人という感覚が前面にでてしまう。

訪れる人は、見た目に、本土からの観光客６割（うち半数はリピーター）、地元以外の沖縄から３割、地元１割といった感である。観光客についていうと、滞在体験型の一つのありようだと思う。これをきっかけにどんな風に展開していくのだろうか。

海楽も、かなりの年数になりそうだが、今後の展開も楽しみである。ここでの出会い・芽生えがどんな風になっていくのだろうか。

それにしても、中心になって企画運営している稲福さんや亜門さんたちには頭が下がる思いである。

ラジオで語る　「沖縄田舎暮らし」　　４月６日

琉球放送で、ラジオ番組の収録を終えて帰ってきた。２０年以上ぶりのラジオ番組登場だ。パーソナリティの大城泉さんの進行がいいので、楽しく語った。

放送は、８日（日曜日）朝１０時２分スタート　１０分間くらいの登場。
番組名がおもしろい。
「キッズバラエティ　サンデーロコモーション」
９時台は、子ども電話相談室　その後に登場。

中味は、『田舎暮らし』風景

リハーサルなしのぶっつけ録音。出版社のアクアコーラルの屋比久さんとともに登場。

思いつくままに、楽しく語った。今、我が家で巣作りをしようとしているイソヒヨドリ。海を見ながらの生活。我が家の芝生にねっころがる話。ねっころがる追体験をしたカップルの話。歌う会の話。野菜をあげたりもらったりの話。都市生活・働きすぎにバイバイの話。短い時間だが、あっちこっちへと飛んで行く話をした。

時間があったら、聴いてみてください。

「沖縄　田舎暮らし」表紙を見た若い女性二人の訪問　　４月８日

昨夕、二人でのいつもの海岸散歩の帰り道、「サチバルマヤー」の前で、若い女性が手を振った。私達の後ろにいた他の女性に振ったものだと思ってふりかえったが、そうではなく私たち向けだった。知らない方だった。

すると、

「たった今、久高島からきたところだけど、久高港の売店で、本の表紙を２～３分見て、とっても気にいったんだけど、そのすぐあとに本人たちに会えるなんて」という話である。それなら、ということで、我が家に二人を誘う。

我が家の庭の散策、ハーブ選び、ハーブティー飲み、ユンタクという風にすすんだ。

お一人は何十回も沖縄に通って、ついに沖縄に住みはじめたとのこと。もう一人は、今同じところで働いているが、私の郷里に近いところ出身だとのこと。話をすすめていくと、共通の話題がたくさん。今後、何度もお会いしそうな予感がする。

沖縄で新しい生き方を始めている若い人たち、とくに女性たちに出会うことがとても多い。ティーダブログでも、そうした人がたくさんいそうな感じである。みなさん、とても生き生きしている。本土の都市生活では味わえない豊かさ、とくに出会いの豊かさに「はまって」いる感じである。

同じことを７、８年前住んでいたカナダのトロントでも感じたことを思い出した。新たな生き方を探し、創造するために、大学・大学院入学、語学学校入学、ワーキングホリディなどで、たくさんの若者、とくに女性が住んで、そのかれらとたくさん豊かな出会いをし、ときには相談にのったりもした。日本から離れてのびのびと暮らしているが、日本に帰らなくてはならなくて残念といった話が多かった。そうした彼女たちには、世界各地で活躍している人が多い。沖縄にくる若者も、沖縄を愛しつつ、世界とつながっている人が結構多い。

集落・子どものこと　第６回たまぐすくユンタク　　４月２１日

２０日の第６回目は、身近な暮らしにかかわる話で、あっちこっちした。並べてみよう。

・集落と集落の間の関係の深さ浅さ
・集落公民館でのいろいろな企画
・昔の登校と今の登校
・子ども・生徒間のいじめ・けんか・先輩後輩関係

「島や宝」　盛り上がる　　４月２６日

昨晩、通路までたくさんの人であふれ、内容的にも充実した会となった。運営委員の末席にいるものとしても喜びたい。

１）定評ある古謝美佐子、与世山澄子、朝崎郁恵さんたちに加えて、大城友弥１７歳の印象的な美しさにはうっとりさせられた。竹富島の童謡は楽しさ強烈であった。

２）近自然工法の福留脩文さん、竹富の上勢頭同子さんをはじめとする発言は、人々と自然とのつながり、循環をとりもどし、豊かにしていくことを、内容と実践をもって訴えるものであった。こうしたことを陸と海、海岸においてもどう実現していくのか、これからの大きな課題である。

３）主催者が前面に立たず、多様な方々を登場させるありようは、とても大切で今後も発展させていきたい。音楽の世界が前面にでるこうしたやり方は、私にとっては新鮮さを感じさせるものである。

４）この後、こうした取り組みがどう展開していくのか、楽しみにしている。

とくに、島起こし、人生起こしとして、どう展開していくかに関心を寄せていきたい。

たまぐすくユンタク　５月２０日

５月１８日のゆんたくは、いつものメンバーが少なく、時々お見えになる方が多い、という具合であったが、不思議なことにいつも１０人ぐらいとなる。小学生２人の参加が特筆事だろう。

話題は、暮らし文化にかかわることが多かった。

一つは食のことで、海産物文化の歴史蓄積が意外に少ないことが一つの話題であった。首里王朝時代、農業中心で、漁業が低く扱われていたのが一因ではないかとの指摘があった。

服装の問題も話題になった。琉装→和装→洋装という流れを歩んできたが、沖縄にふさわしい服装はどんなものか、歴史の進展のなかで、どこに落着していくのだろうか。かりゆしウェアは一石を投じたが、どうなっていくのだろうか。タイパンツをどう考えるのか、そういえば、タイパンツに似たもので、沖縄の風俗にあったものが、八重山にある、という話しとか、いろいろと弾み飛んで行った。この問題もからむが、アジア文化と沖縄文化との関係は興味深いことが多い。

たまたまヒゲを伸ばしている男性が多かったので、ヒゲ論議もはずんだ。

当初予定の半年を経過し、次はどうしていくのか、次回はどうするか、は幹事が相談して提案することになったので、次回は現在のところ未定ということである。

大縄跳び　５月２２日

名桜大学ワークショップの懇親会のために、ワークショップのなかで企画づくりをした。「自分のこれまで、これからを語る」など実に多様な企画がつくられ、そのことも、夜遅く（朝早く？）まで盛り上がった一因となったのだろう。

その企画の最初に「大縄跳び」があった。チーム対抗でおおいに盛り上がった。私はついひきづられてやってしまった。１８回までは順調だったが、１９回目でついに体がついていかなくなってダウン。でもよくやったと思う。２０才前後の方々といっしょに楽しむのはとてもいい。

ついでに一言。大縄跳びは、チームを団結させる点でとてもいい。だから、学級の団結をめざしてよく取り組まれる。しかし、うまくやれないメンバーにマイナス効果を与えるかもしれないことに注意したい。そのメンバーを助ける方向に力学が働けばいいのだが。

この合宿ワークショップには、豊かな生き方、充実した生き方をしてきたメンバーが多かった。たくましく生きてきた沖縄の普通の庶民の雰囲気をかもしだす人も多かった。遠くから沖縄にきて、ぬちぐすいを得て、生き生きしている若者もいた。そんな一人ひとりが豊かなハーモニーを醸しだした、といった感じであった。だから、マイナスの危険もある大縄跳びも豊かに展開したのだろう。

中山合唱団発表

中山豊年祭

５月２８日

２７日恒例の中山豊年祭が開かれた。その「余興」のなかで、我が中山合唱団の最初の発表を行った。「てぃんさぐぬ花」「故郷」「千の風になって」「芭蕉布」の４曲である。

昨夏、ちょっとしたことをきっかけにして、この合唱団ははじまった。集落住民で合唱素人がほとんどだが、すばらしき合唱指導者の力により、ここまできた。はじめのころ「冗談」のつもりでいっていた豊年祭で発表が本当になってしまった。

まだ体調芳しくない私であったが、こんな機会を休むわけにはいかないと必死に参加し、歌った。出来ばえはいかがであったろうか。

他の余興も例年よりもまして充実した感じがしたが、私そうそうに失礼してしまった。

今後ますます興味深い展開になることを期待したい。

奥武ハーリー

６月１８日

今日は旧５月４日。向いの奥武島ハーリーである。見物に行く。いつか漕ぎたいとは思っているが。

見ていると、近隣の人が集まっているということで、そこでみんなで酒をのみながらの見学。この写真は、小学生のレース。今日の玉城小学校は休業日。午前中は幸いなことに雨降らず。終了の３時ころから大雨である。

それにしても、いよいよ梅雨明けは近い。

キジムナーフェスタ

7 月 28 日

沖縄市で開かれているフェスタに、恵美子は毎日のようにでかけて、エンジョイし、発見しているようである。私も誘われて２６日、パントマイム劇を見る。

結合・誕生・喪失・別離・再結合といったようなテーマでの、言葉を使わない二人の演技が続いていく。コミカル過ぎないし、真面目過ぎないで、かつ印象的にテーマを追求している。いろいろな受け取り方をもたらす豊かさがあるように思う。

舞台設定も、小劇場風に、演技場所を観客が取り囲むスタイルで、すべてかぶりつきの雰囲気である。演技力のすごさには感心した。

このフェスタは実に多彩で豊かである。こんなものを、各自治体が主催して開くようになるといい。先日の南城ユンタクで、私は「子ども祭り」を提案した。ミュンヘンや佐倉市でやっているイメージである。それは外部からゲストを招くよりも、子どもたち自身、そして子どもにかかわる若者・親、そして地域の多様な方々の＜参加＞のなかでおこなわれる。その参加は、企画・運営を当然含むものである。「参加者」はお客さんではないのである。

こんなものが各地で広がるといいなあ、と期待する。

「南城移動ユンタク会」のご案内　　７月５日

これまでの「たまぐすくユンタク」をバージョンアップして、次のような会をもちます。
どうぞご参加ください。

南城移動ゆんたく会

南城は、すごく歴史のある地域ですが、市としては新しい顔です。これまでの大里、佐敷、玉城、知念の四つの顔が、多様で豊かな出会いをしつつ、新しい顔をつくりつつあります。そして、市外からも、沖縄県外からも、世界の多様な地域からも、新しい顔が南城市を豊かにしはじめています。

そんな地域を豊かにするためには､いろんな場がたくさんあったほうがいいと思います｡その場の一つとして、この会をもちます。会員制ではありません。参加したい人が参加する会で、南城にかかわることなら、なんでも気楽に、話題があっちこちしながら、１０代から８０代以上までの男女がゆんたくする会です。

場所は毎回変える移動式でします。南城のいろいろなスポット、有名なところ、有名ではないところ、とりまぜてひらいていきます。ご推薦の場があれば、どうぞご提案ください。これまで、「たまぐすくユンタク」というのを開いてきましたが、今回から、南城市全体にわたる会へとバージョンアップしました。

第一回目は、素晴らしく魅力的で広大な庭園のある「しゃんぐりら」で、園主の安和さんのご協力をえて行います。

遠慮なくご参加ください。

第一回企画
７月２１日（土曜日）１時３０分～　　（現地集合）

園主による庭園案内の後で、ゆんたくします。
ゆんたく予想　・・・・　庭・家づくり　　景観　　自然と人生　　南城市のこれから　７／１３地域フォーラムの話題（健康と観光）・・・・

会費は、その場で相談して決めます。

南高梅の原産地　南部訪問　　７月４日

熊野の旅への経路である南部（みなべ）で、卒業生たちとあった。すべて琉球大学卒業で、私たちも含めて、沖縄出身の女性、沖縄婿の男性の３カップルということである。みなさん、学校現場では、中堅以上の位置にあり、しっかり仕事をしておられる。

昔話と現在の話、人生話など、実に多彩な話が展開した。

翌日は地域をいろいろと案内してくださった。この地域は、南高梅を育てることが中心産業となっており、あたり一面梅といってもいいくらいの光景である。ここにあるかつての南部農林高校でつくられた品種だから、南高梅というのである。

卒業生の一人も兼業で梅畑をやっている。自家製の梅をいただいた。このところ生産過剰で価格が下がり、農家は苦しい状況だという。

熊野詣の途中には、〇〇王子というのが、たくさんあるが、その一つの切目王子にもいく。

また、南方熊楠顕彰館も訪問する。

そして、熊野の絶好の案内書籍をいただき、熊野本宮へのショートカットの道案内もしてくれて、お別れする。

移住計画中の方々など　　８月１０日

忙しい中だが、いろいろな出会いがある。

一組は、飛行機で偶然、往復ともご一緒になったが、私達の近くにペンションを準備中である。ここあたりには、大規模ホテルではなく、こじんまりとしたペンション・民宿が似合うと思う。私のいう「手作り南城」にふさわしい「手作り観光」である。

もうひとかたは、知人といっしょに我が家を訪問された。Ｕターンである。配偶者の方は、本土出身だから、私達と同じである。若いときに、本土にわたって、人生の後半期は、夫婦で沖縄に戻る方が増えているようだ。

もう一組は、夏季休暇で家族そろって沖縄に戻られ、我が家を訪問。これまた、沖縄と本土の組合せの夫婦。ほほえましい家族風景に出会う。

最近は、本当に沖縄と本土の組合せのカップルが増えてきた。これらの方々が、沖縄内外に新たな世界をつくりつつあると思う。

今日は、これから長崎。そして帰沖直後に本土からの来客予定。数年ぶりの再会である。
そして２日間のワークショップなどの後には、息子家族の来訪である。

夏はいろんな出会い・再会がある。そんな再会のなかで、便りがなかった方々の情報も入る。うれしい話、悲しい話、織り交ぜてである。

親子二代のつきあい　　９月１６日

つい最近、ある学生との出会いのなかで、どうやらその親は私のかっての卒業生らしい、というので、確かめてみたら、そうであった。

大学や専門学校で授業をすると、「私のお父さん、昔、先生の授業をとったんだって」という学生がしばしばあらわれる。ここ３年間でいうと、１０人以上はいる。

私の大学教師生活は、１９７２年の沖縄大学・琉球大学から始まるので、そのころの教え子は、もう５０代半ばであるから、当たり前といえば、それまでであるが。

そのころの私は「鬼の浅野」であったので、今の「仏・仙人の浅野」とのギャップに，親子間でとまどっているだろうなあ、と思う。

それにしても、出会うそんな学生たちには、親子関係を楽しくやっているタイプが多い。かっての卒業生たちは、大変いいお父さん・お母さんをやっているんだろうなあ、と思う。そのお父さん・お母さんたちの世代は、社会的に活躍する世代なので、なかなか会えないことが多い。いつか会いたいと思う。

南城移動ユンタク　　佐敷つきしろ　　９月２９日

写真は、２８日夜のゆんたく会の光景。一枚目は、当主夫妻。二枚目は会場から眺める中城湾夜景。

７月の知念シャングリアに続いて（８月はお休み）、今回も絶景。次回１０月も絶景の場所を予定。

たまたま今回は、県内外からの南城への移住者が多かったので、その経緯、そして南城での仕事起こし、地域起こしが話題となった。ここでの生活ぶり、健康ぶりなども含めてである。

毎回自由参加形式をとっているが、１０～２０名の方々が参集する。そして、まさに自由なユンタクで､話があちこちする。それがおもしろい。

「教科書検定」県民集会　　９月２９日

１２万人参加。感動と熱気

次ページ写真は、『教科書検定』をめぐる県民集会で撮影し、終了間際と帰途に送信したものだ。

この集会には、玉城の市庁舎から、市が用意した貸し切りバスで参加した。定刻前に満席になり、市はさらにマイクロバスを用意した｡市全体では何台のバスをだしたのだろうか｡乗車したのは比較的年齢が高い層であり、若い方々は自家用車ででかけたのだろう。

１時出発であったが、会場に近づくにつれ、激しい渋滞で、結果的には会場に３時過ぎの到着であった。

会場は溢れていた。集会の進行は、「自決」シーンの体験者証言でクライマックスに達した。胸に強烈に迫ってくる。検定で「軍隊の関与」を否定した人は、この事実をどれだけ知っているのだろうか。これだけ多数の体験者目撃者がいるなかで、あえて、それを否定する人には、強烈な意図を感じる。今回の集会は、まさに党派・世代・思想を越えて、戦争下における事実を受け止めることを出発にして考える人たちが参集している。１２万人もである。参加したくても参加できなかった人を加えれば、県民のなかのきわめて多数の人々が、この集会にかかわっているといえよう。

私自身、こんなに多数が集まる機会に出会うのは、大変久しぶりだし、沖縄では初体験である。なにせ県民の数%が集まっているのだ。集まっている人たちは、政治に深い関心をもつ人というよりも、ごく普通の人たちが多い。

こんな県民の共通の声に、政治の世界はどのように動いていくのであろうか。

帰りも大変な渋滞である。私たちのバスが会場周辺から出た時には、集会終了後から１時間３０分が経過していた。

私の記憶に残る大きな集会であった。

県民集会に参加した人々と交通手段　　１０月１日

県民集会が終わって二日。当日のいろいろな話が聞こえてくる。

１）ある青年会では、バイクに高校生をのせて会場までピストン輸送。

２）ある近隣の人は、開会１時間前に出発したが、開会後１時間３０分たって、到着。車のなかのラジオで、会の様子を聞いていた。

３）外国人も参加。私の知人のアメリカ人・アジア人も参加。

４）一家を代表して参加した人も。　私の近隣でいうと、数軒に一人は参加。当日の参加者数から計算すると、８％の参加だから、数軒に一人ということになるが、それと合致する。

５）参加できなかった人は、まず人に会うと、参加できなかった理由を話す。風邪をひいていたとか。一家を代表してお父さんに参加してもらったとか。

当初参加予定数の２倍以上の参加だったから、いろいろと思わぬ事態が、とくに交通関係で続出である。これだけの人々が、みずからの判断で参加するということのすごさを実感する。会場参加数は１１～１２万人かもしれないが、会場にいきつけなかった人など、参加意思をもっていた人を含めると、すごい数になりそうである。

このブログの私の県民集会関係のアクセス数は、普段のものの数倍である。

歴史を「変えようとする」ことに対して、「歴史をつくりだす」動きが、とてつもなく広く深く渦巻いている。それが沖縄らしいのかもしれない。

ゆんたく会　三木さん宅　海岸清掃余話　　１０月２８日

昨日２７日の午後３時から、近隣の三木さん（元琉球新報副社長）の山小屋で、南城移動ユンタクに衣替えしてから３回目の会をもった。出入り自由の会なので、毎回多彩な方々が登場なされる。ということで、最初の三木さんの話、参加者の自己紹介で、２時間近くがたってしまう。それ自体がユンタクの雰囲気である。

このところ、南城の町づくりの話題が一番多い感じである。景観と開発などである。

三木さんは、自分の山小屋をオキネシアと名付けられているが、このオキネシアの言葉を三木さんの許可をえて、お菓子シリーズを販売しているのが、実は私の教え子の弟だったということが判明した。こんな風に、いろんなつながりがどんどん生まれてくるのが、この会だ。三木さんの話は、山小屋建設に至る長い長い歴史、そしてニューカレドニアとの交流をめぐる話、じつに多彩な話だった。

今回は、海岸清掃があって、残念ながら私たち夫婦は途中退席した。

毎回毎回、新鮮なユンタクになって楽しい。次回開催地の候補もしぼられてきているようで、また新たな出会いが生まれてくることが予想される。

海岸清掃は、もう一つの前の記事に書いたが、今回もゴミ袋１０個近くの大変な「収穫」があった。前回までは朝やっていたが、今回から夕方にして、終了後ビールで乾杯にしようということになって、写真のようになった。この後は、隣人宅で１１時までの飲み会となった。我がビングァー通りでは、久しぶりの飲み会となった。

なつかしい出会いの連続　　１１月１１日

ここ２、３日はなつかしい出会いの連続である。

４０年近くぶりの放送大学教授との出会い。

卓球の試合で、昔の対戦相手との２０年ぶりの出会いと対戦。

那覇環境フェアでの、昨年の沖縄国際大学教職演習受講の社会人学生二人との出会い。

初対面だが、沖縄のＣＡＰ（児童虐待防止）の方、学童保育組織の方。

宜野湾のフェステバルでは、教育長との出会い。２０年以上前の研究会での出会い以来である。立派な教育長になっておられる。

帰宅して、恵美子が連れてきた人が、これまた２０年ぶりの出会い。実はその彼氏が、昨日の卓球の対戦相手。かれとは昨年、２０年ぶりに出会った。

なんとも不思議な感じがするくらいの久しぶりの出会いである。そういえば、我が家を訪問した立命館大学学生を案内してきたのは、３０年前の教え子であった。

そして、環境フェアの贈呈式では、７月のロハス番組を制作したスタッフとも再会した。

あまりにも出会いが多すぎて、興奮のしまくりであった。

ニューカレドニアの訪問団との交流　１１月１４日

今日、近隣の三木さんのオキネシアハウスで、ニューカレドニアからこられた方々との交流の集いがあって参加した。

ニューカレドニア、それはどこ？　出かける前に、世界地図で確かめた。オーストラリア近くの、メラネシア・ポリネシアといった島々の一番の南に位置している。

その島々に、戦前から沖縄を中心に日本からも移民の方々がたくさんおられた。しかし、戦争の時、大変な苦労をしいられて、それ以来交流がとだえた人も多い。今回、こられた人々は、子や孫にあたる人々で、沖縄にいる親戚・兄弟姉妹にはじめて出会う方々がけっこうおられるようだ。

現在、フランス領であり、言語もフランス語なので、フランス語通訳を介してのコミュニケーションに頼るしかない。双方に多少英語が通じる人がいるので、英語での直接対話も可能であるが、限られている。フランス語通訳の数も少ないので、せっかくの交流だが、ニューカレドニアの方々と沖縄の方々が、それぞれ固まってなかなか交流がしにくい感じであった。それでも、大変陽気なニューカレドニアの方々で、歌三線・空手などの演舞があると盛り上がる。私はかれらのなかで、泡盛をすすめる役目を果たした。泡盛が大好きな人が集まって、盛り上がった。

そして、英語のできる方を探して、いろいろと会話した。時には、沖縄人－私－英語の話せるニューカレドニアン－ニューカレドニアンという会話もあった。

かれらには、複数のルーツをもつ人が多い。私と話した人も３つ、５つのルーツをもっていた。たとえば、沖縄人、ヨーロピアン、島のネイティヴという具合である。他には、中国、インドネシア、他のメラニシアの島、アフリカ系といったルーツをもつ人もいた。そんなこともあってか、大変開放的で、島の外に開かれている人々だと感じた。肌の色の多様さが豊かさの象徴にさえなっている感じがした。２つのルーツをもつことだけで、びっくりしがちな日本や沖縄の情況とは大変異なる。　まさに多文化が普通の社会のようだ。その豊かさを直接感じる時であった。

写真は、親しく話した人達と会場のオキネシア（三木さんの山小屋）

今年最後の海岸清掃と飲み会　　１２月３０日

２９日、今年最後の海岸清掃を６名で行った。先日の大雨で、多少砂の配置は変化したが、最近の砂の増大傾向は続いている。砂浜がぐんぐん広がっている。今後が楽しみな感じがする。今回のごみ量は、大雨後のせいもあってか、少々多い感じがした。

終了後、今年の打ち上げで、飲み会を我が家でする。いろいろなことに話の花が開く。

私たちの海岸清掃もこれで満２年がたった。短いようで、長いようだ。継続は力なりなのだが、もう少し輪が広がるといいな、という気もする。

２００８年

びんがー新年会　　１月４日

近所の飲み会 盛り上がり過ぎかも

近隣１０軒くらいで集まって開く飲み会は、はじめてからもう３年以上たった。今年は、新転居者もあかちゃんつきで参加し、新鮮な風がふいた。

中山合唱団　発表会に向けて「猛？練習」　　１月９日

久しぶりに合唱の練習に出る。１２月は出張とか体調を崩したとかがあって連続して休んでしまった。

１月２７日（日曜日）夜に、中山集落センターで発表会をすることになっていて、それに向けて追い込みの練習である。

なぜか、男性二人がソロで一曲づつ歌うプログラムが組まれている。私もその一人である。もう一人の方の「サンタルチア」は完成度が高い。私の「見上げてごらん　夜の星は」まだまだである。簡単そうにみえて、なかなか難しい。

合唱をやるのも、５０年ぶりなのに、ソロで歌うなどは、生まれてはじめての体験だ。

さて、どうなることやら。

それにしても、練習後の気分の爽やかさはなんともいえない。

中山合唱団　次の企画へ　　２月５日

４日夜は、定例の練習をやめて、先週の発表会のふりかえりの会となった。

大成功ということもあって、話がはずむ。私は知らなかったが、プロで活躍してきた音楽家もきておられたとのこと。「これくらい歌えるのだから、どうしてハーモニーをしないの」という質問があったという。うれしい感想である。私は、ユニゾンで歌っていても、ハーモニーになっているからいいんじゃないの、と勝手な感想。でもハーモニーに取り組んでみたい気分はある。

次はだれがソロで歌うかかも、関心のまと。

ともかく話ははずむ。それをまとめて現実化するのは指導者の腕の見せ所。私たち高年齢合唱団員は、いいたい放題。ある人は、前から、いつかはカーネギーホールだとおっしゃる。それは無理だが、シュガーホールでやりたいという声なら、少しは現実性を帯びる。

当日のビデオをみながらの感想会だったが、当日、中山の中心的な方々が、男性合唱、女性合唱に披露したの

が、当日の大きな収穫。中山の文化発展のすごい口火になりそうだ。私たちの合唱が種火だとするなら、大きな火になって広がりそうだ。

話はどんどん広がるが、体調不良の私は早めに失礼した。

この物語はどんな風になっていくのだろうか。

中山、体育行事結団式　　２月２４日

昨夜の集まりは、４月から開かれる南城市の各種体育大会に向けての結団パーティである。区の役員と、体育部長、そして各種目の中心的メンバーなどの集まりである。私は卓球でかかわった。卓球の代表は、私より先輩で、輝かしい卓球歴をお持ちの方にお願いした。

会場の集落センターの演壇には、３年前の最後の玉城村の大会での卓球の優勝旗が飾ってあった。最後の大会だったので、優勝旗返還がなく、そのまま我が集落センターに保管ということのようだ。

中山集落は、バスケットが強く、優勝経験もある。それにバレー、サッカー、ソフト、そして卓球である。かつては陸上でも輝かしい歴史をもっているようだ。男性がほとんどで、女性が少ないのは残念である。卓球は例外で女性が主導している。今、男性の卓球選手募集中である。

このパーティの最中に、井上靖さんの飛び入りの「オーソレミヨ」の歌があった。参加者を圧倒した。

パーティには、いつもの４０代、５０代ばかりでなく、３０代、２０代が参加しており、これからが楽しみである。

ブログなんくるないさの主人　　３月３日

私のブログに強い刺激を与え続けている山上さん。いつものように突然の参上。

今日昼前に沖縄に到着したばかりなのに、たくさんの記事が掲載。かれの記事が、ティーダブログのベストテンの常連であることを納得。

話のなかで、彼のかかわるブログへのアクセスが一日５０００にもなって、すごい影響をもったことも紹介された。今の世の中、「不正」を、ブログを通して改めさせるというアプローチがあることを知る。

若者の将来創造研究会、終える　　３月９日

土曜日、内海（宮城）恵美子さんによるフィンランド教育視察レポートをもとに、研究討論がおこなわれた。

日本のありようと異なるだけでなく、「先進国」のなかでもかなりユニークな展開をし、きわだった実績をあげているフィンランドの教育は、世界

中から注目を浴びている。だから、日本も含めて、いろいろなところからの視察がひっきりなしだとのことである。

そして、その教育は、日本とは対照的な面を多くもっている。今日の報告での注目点の一つは、教育は、現場にできるだけ近いところが計画を作成し実践していく点であった。これは日本とは対照的である。現場の教師たちが創造的に取り組むというスタイルなのである。

そして、子どもたちも共同して学びあう、そのために個人としての課題意識をもった学びが重視される。そのなかで、「底上げ」がはかられる。情報産業を中心に産業的にも注目を浴びている国である。

今後も、その教育動向に関心をもっていきたい。

この研究会は、その前の生活指導理論研究会の時も含めて３年間続き、通算すれば２０～３０回開き、多くの刺激を参加者に与え続けてきた。２０～４０代の研究者を中心に、毎回興味深い論議が続けられてきたが、今回をもって一区切りをつけることになった。

我が家での集まりの企画は、私が忙しくなったこともあって、しばし「休息」状態になっている。しかし、徐々に新しい形で、いろいろな集まりをもっていきたいと思っている。いろいろなアイデア・提案を募集しています。

福島の大学生の訪問　　３月１３日

福島の大学生が沖縄訪問をした。私の琉球大学勤務時代の学生が、今、福島の大学で教員をしているが、実はそのゼミ生なのである。いってみれば、「孫学生」なのかな。

私の「異質協同」という考えに興味をもったことがきっかけとのことだ。これまでもアウシュビッツ、そしてベトナムを訪問し、今回は沖縄訪問だ。ゲストハウスに泊まりながら、自分なりの考えで、各地をまわっている。

火曜日には、かねてから予約していたｱﾒﾗｼﾞﾝｱﾝｽｸｰﾙｲﾝｵｷﾅﾜの見学を行い、今日は、私がすすめたこともあってか、アブチラガマを訪れた。そのあと、私に連絡があり、私が迎えにいって、我が家に招待した。

いろいろな世界をみながら、自分の人生を、教育、福祉、国際協力といったこととからませながら、考えているすてきな学生である。

きちんとした生き方創造をおしすすめているという印象をもった。今後に期待したい。

この時期は、はじめての訪問で出会う方が多い。とくに若い方の創造的な生き方に出会うことが多い。先日の日曜日にも、音楽関係でチャレンジングな企画しておられる方の訪問を受けた。「経済的採算」ということでいうと、かなり厳しいが、その創造的なありように惹かれる。こうした若者に、この付近で出会うことが多い。私としては物質的に応援することはできないが、その気持ちにはエールを送りたい人が多い。

シュガーホールの偉大な創造　中村透学位論文を読む　　３月２２日

中村透さんから彼の学位論文が贈られた。すごい論文である。

内容は、シュガーホール活動の詳細な展開について述べながら、地域創造、音楽創造、多様な人々の協働創造などについて、きわめて斬新な理論展開、提案である。一つのホールの活動が素材だが、それが沖縄・日本はいう

までもなく、国際的にみて、言い方を変えると、歴史的にみて、すごい問題提起を行っていることを、理論的に解きあかしている。
　専門的な論文だが、多くの方に読んでもらい、それについて討論してほしいと思う。

　彼とは、１９７０年代後半から８０年代にかけて、協働でいろいろな仕事をした。その後、かれはオペラ作曲やシュガーホールでの仕事を展開し、私は、教育・生活指導分野で、またワークショップ論として、いろいろと展開してきた。この間、二人でいっしょに仕事はしていないが、していることの共通性は深いと感じる。アプローチはすごく異なるとしてもだ。

卒業生の新婚旅行訪問　　３月２４日

　中京大学の１４年前卒業。学生時代、私にゴーヤを食べさせられたことを思い出したとのこと。その時、いっぺんに「酔いが醒めた」という。
　偶然立ち寄った花野果村が縁。午後、携帯に花野果村の大城さんから電話。この卒業生カップルが花野果村を訪問しているとのこと。
　学校での仕事を片づけて、花野果村に直行。１０数年ぶりの出会いである。
　花野果村で大城さんと話しているうちに、私の卒業生であることが判明。つながればつながるものだ。

ホタルの国から　　３月２６日

　３０年近く前の教え子から贈られた本。
　今日、本が届いた。昨夏、熊野の旅にでかけたおり、当地で教員をしている夫妻からである。二人とも教え子であるが、その教え子の琉球大学時代の学友である「さとうふみやす」さん夫妻が、最近発刊した、この本が贈られたのである。

　さとうふみやすさんも、記憶にある。当時、生物学科の学生が私の授業でずいぶん活躍していた。そのかれらが、卒業後、あちこちで活躍しているニュースは、直接間接いろいろな形で耳に入ってくる。
　佐藤さんも、久米島ホタル館館長をしていることを新聞報道で知った。
　この本は、ホタルの話、そして環境問題にかかわる。写真がいっぱいである。正式タイトルなどは、「ドキュメント地球のなかまたち　ホタルの国から　――沖縄・久米島のクメジマボタル」（新日本出版社２００８年刊　１４００円）である。
　いつか久米島に出かけて、ホタルにも佐藤さんにもお会いしたいと思う。

ヒージャー会

３月２９日

２０何年ぶりに楽しむ

卒業生、海岸清掃に参加　３月２９日

３０年前の卒業生の訪問。定例海岸清掃に合流

クモ貝　３月２９日

卒業生が発見。生きているので、海に返す

ソージリ

４月２７日

サメ、つまりはフカヒレの切り身を天日干し。奥武島特産品で高級であり、「ここでしか」というものだそうだ。

中山集落の新旧役員歓送迎会の宴会でいただく。なかなかの美味である。

戦没画学生の作品展示　無言館と沖縄県立美術館

５月２３日

今、県立美術館では、長野県にある無言館に展示されている戦没画学生の作品の展示が行われている。このところ、県立美術館では、なかなかの企画が行われている。知人の小川京子さんの展示もそうだが、今回

もそうだ。

私と無言館との出会いは、３年前のことだ。長野大学でのワークショップの折、同大学の先生の案内で訪問した。戦没画学生の作品に特化した展示であるし、建物なども大変印象的なものであった。

ここにある作品は、大変若い画家のもので、まさに発達途上にあった人の作品であり、美術そのものとして鑑賞することでは、それほどの評価が与えられないかもしれない。しかし、その背後にあるかれらのストーリーを考えるときに深い意味を感じる。と同時に、そうした作品に特化した美術館であることのストーリーに深い意味を感じる。そしてまたそうした美術館のものを展示する県立美術館にもなかなかのものを感じる。

中山豊年祭　　５月２５日

左写真は、県立芸大ＯＢによる余興開始口上

無事、豊年祭はほぼ終わった。夕方６時すぎの今、まだ余韻を楽しむ。飲み会は続いてはいるが。

中山は玉城のなかでも小さな集落だ。今年は人口が２３０人とここ何年かの間では最高数だが。

その集落の一年間のなかでの最大の行事は、この豊年祭だ。豊年祭と敬老祝と出生祝を兼ねる形のものは３０年ほど続いているということだ。こうした形は、南城市のなかでも少ないということだ。

もちろん、区民総出の行事で、那覇などに移った出身者もたくさん集まる。

出し物は、婦人会、子ども会、そして我が家中山合唱団（右写真）、そして女性合唱団と壮年合唱団である。加えて、県立芸大ＯＢによる沖縄芸能のプロ出し物が加わる。ということで、大変な盛り上がりである。

さて、我が中山合唱団。はじめての混成二部合唱に挑戦だが、なかなか難しかったというのが率直なところ。でも、これをきっかけに、多少即席とはいえ、女性合唱団と壮年合唱団が登場したことは画期的といえよう。

こんな風にして、中山は少しずつ歩んでいる。

キジムナーフェスタ　ドラマ教育　私はでるの？でないの？　　６月１８日

キジムナーフェスタは大変興味深い催しだ。昨年、恵美子に誘われて参加した。時間があれば、多くの企画に参加したいと思った。

昨年末、そのキジムナーフェスタの２００８年の企画としてドラマ教育を三日間にわたっておこなうことになったが、それにかかわってほしいという要請を受けた。大変うれしい要請で、即座にお引き受けした。要請は、この企画の三日目（７月２７日）の最後のシンポジウムのパネリストである。

その後、連絡打ち合わせなどはなかったので、どうなっているのだろうと気になってはいた。５月になって、キジムナーフェスタ全体の案内のチラシが各所に配られた。ｱﾒﾗｼﾞﾝｱﾝｽｸｰﾙｲﾝｵｷﾅﾜの一人の職員が、この企画を見つけて、私に話してくれて、フェスタの全容を知った。その際に、「浅野隆（ｱﾒﾗｼﾞﾝｱﾝｽｸｰﾙｲﾝｵｷﾅﾜ校長）になっていますが、先生のことですよね。ワークショップとなっているので、先生がワークショップをするんですか」と尋ねられた。どうやら、入力ミスで名前がまちがっているようだ。また、「ワークショップをすることになったのかなあ、いずれ連絡相談があるだろうから、そのときに対応しよう」と待っていた。

昨日、この準備作業に少しかかわっている恵美子のもとに、三日間の詳しい企画が送られてきたので、私も読んでみた。昨年の要請とは異なり、初日（２５日）、中心になるニーランドさんというイギリスのドラマ教育者の基調講演に対する指定討論者として私が位置づけられていた。この日は、ｱﾒﾗｼﾞﾝｱﾝｽｸｰﾙｲﾝｵｷﾅﾜで私が主導する職員研究会があって、スケジュール的に困ったなと思った。それにしても、私への相談なしに日程・役割が変更されている。いずれ連絡があるだろうと思ったが、恵美子が気をきかして、企画者に連絡をとったので、電話があった。

趣旨説明を受けた。企画プランは確かにおもしろい。しかし、私が対応困難である。学校のスケジュールが変更になって、参加できるかもしれないが、それはすぐにはわからない。もし参加できないときは、文書発言をするから、事前に基調講演のレジメでも送ってくださいと要請した。すると、その要請はできないといわれた。不思議な話である。

こんななかで、外国と日本の研究交流について、いろいろと思いふけった。私自身の見聞・経験にもとづいてである。日本では、外国の研究を紹介・普及しようとする動きは広くみられる。だが、それを日本の現場とかみあわせて、どう展開していくか、というところにまで掘り下げていくことはなかなかおこなわれていないのが実情である。悪くいうと「鵜呑み」で展開するか、その「鵜呑み」がうまくいかないと「捨ててしまう」ということになりがちである。これでは、相互交流にはならないし、日本での現場実践の自律的発展ということにはならない。

その意味で、今回の企画はイギリスの方の提起に対して、日本でのワークショップ経験をふまえて、私が指定討論し、それにイギリスの方がこたえるというもので、なかなか興味深い。でも、事前の基調講演のレジメはないし、それをいただけるよう要請することはできない、というのは不思議なことだ。

それにしても、外国の方と共同企画・共同作業をすることに慣れていない人が多いのだが、その際に「したて（下手）」で対応して、対等に相談協議することに慣れていないケースがとても多い。そしていろいろ問題を生じさせて、疲れてしまい、あきらめてしまう、というケースが多いのは残念なことである。今回そうならないよう願いたいところだ。

こうしたことはともかく、この企画はおそらくおもしろくなるだろう。おそらくというのは、このイギリスの研究者の方について、私はまったく知らないし、事前の資料もいただいていないから、確信をもっていえないからである。

それにしても、成功を祈る。

週末は突然訪問の方が多い　　６月２３日

今回の突然訪問、まずは先のマンゴーの記事で書いた大阪の高校の先生たち。

おみやげに、近くのマンゴー販売店でマンゴーを買ってきてくださったが、我が家にもマンゴーがあって、びっくりという具合だ。我が家引っ越し記念のクースとシマラッキョーを味わっていただき、ユンタクを一杯した。

イノーまで散策する。さすが意欲的な先生たち、でイノーの最先端までいく。潮が満ちはじめてきたので、少々心配だったが。さすが理科の先生はその辺は詳しい。

４、５月のシーズンが終わったせいか、イノーの動植物は少ない感じ。

その後、ヤハラヅカサや受水走水あたりをまわる。受水走水では、近隣のガイドの方が案内している方々と鉢合わせ。

そして、花野果村でもう一度鉢合わせ。主の浩明さんからいろいろとサービスを受ける。そこで、たくさんの地域情報の交換。南城市作成の最新版ガイドブック。そして昨年制作になるが、案内ビデオを見る。南城市もなかなか整ってきた。さらに、浩明さんたちは、フリー情報誌を作成して、もうすぐ配布とのこと。私たちのユンタク会も掲載。

今は、忙しくて地域とのかかわりが少なくなっているが、再び、いろいろと取り組みに参加できる日を待っている。

その後、は奥武島海産物食堂。大阪の先生たちは大満足。夕陽の時間には、奥武島の龍宮にいく。夏至なので、タマグスクは大混雑だろうと思って、龍宮で夕陽を見ることにした。

かれらは、こんなにゆったりした時間と自然のなかを満喫して満足そうだった。

昨日は、我が家の設計者の方の訪問。いろいろとユンタク。近くの集落での設計の仕事が入ってきたとのこと。最近は県内移住者が多くなっている感じがする。我が中山でも、人生後半期に入られた方々のＵターンがある。今年の集落人口が１０人近く増えたのはそのためのようだ。

こうやって、突然訪問があり、そのなかで旧交・「新交」を温めるのも、この地域ならでは、である。

ネパールが「王国から共和国へかわった日」の生の報告　　６月２４日

私の長年の友人、神保映さんは、ネパールと神奈川の往復生活をつづけている。その彼が、今回のネパール滞在中に、「王国から共和国にかわった日」に遭遇し、その日のカトマンズの街の報告を書いている。かれが中心となって創設し、その後も着実に発展している「ネパール教育支援の会　ＮＥＳＡ」のニュース「ビスターリ」９０号でである。

日本の報道機関だけの情報だけだとわかりにくい詳しい生の情報が入ってくる。とくに「マオ」の動向がわかる。

この「ビスターリ」には、当然、ＮＧＯとしての活動が中心に書かれているが、ネパールの暮らし・歴史・観光など、また会員の人生についても書かれており、楽しい記事が満載である。

私も以前、５年間、同会の会長を「名前」だけつとめさせていただいた。ネパールも２度訪問し、たくさんの発見をさせていただいた。また、神保さんが早期退職をして、新たな人生創造をされたことに、私は強く刺激を

受けたのである。

半島芸術祭 in 南城　　６月３０日

琉球新報の今日の夕刊記事。この企画に恵美子は隣人たちと参加予定

実行委員会の芸術家メンバーの知人たちの強い誘いを受けて、隣家で開催予定。

生け花、パッチワーク、そして恵美子のブイアート。

私はハーブティーで参加予定。

１０月のことだが、今から話だけは盛り上がっている。

外間信太郎スプレーアート　　７月１９日

トータルプロのギャラリーの今回の展示はこれだ。スプレーアートというのを私は知らなかった。迫力がある。山水画のような感じだ。

外間さんの他に知っているトータルプロ関係芸術家は、以前にも紹介した点描画の大城清太さんだ。かれの展示は、８月後半のようだ。

このあと、パークアヴェニューを歩いていくと、旧知のアメリカ人家族と出会う。キジムナーフェスタの紹介をする。すると、フェスタを中心的にになっている人とばったり出会う。

偶然の出会いが多い日だ。このあとも何人かの旧知の方に出会った。

そして、早速、フェスタの方が、英語版の案内をもってきてくれ、そのアメリカ人家族にさしあげる。

トータルプロのギャラリー　　７月１９日

隣人金城さんが経営　沖縄市中央パークアベニュー

看板などの業だが、芸術家が働いており、いろいろなテーマ・ジャンルでの美術展を開いている。

綱引きと飲み会

７月２７日

綱引きは、この近隣では同じ２６日に行われる。昨夜も隣の集落の綱引きの音が響いてきた。有名な仲村渠だけは今日行われる。綱引きは何百年もつながってきた行事だ。

しかし、だんだん参加者が減ってきているのは残念だ。それでも集落人口の１／３は集まる。

終わってからは、恒例の飲み会。集落センターの前で開始したが、雨が降ってきたので、室内に移動。夜遅くまで続く。新しい顔ぶれも。とくに２０代の若い青年たちが何人もいたのが頼もしい。

前に聞いていたマチボウ（巻棒）を覚えている人が何人かいた。３０年ほど前には中山で行ったようだ。こうした行事の復活、あるいは新しいバージョンの登場が待たれる。

写真は、カネ太鼓で盛り上げるシーンとひきあい本番

くんなとぅ１０周年　　７月２７日

モズクそばの店。近所の人と参加

中山子ども会バーベキュー　　８月２３日

いつもの海岸散歩での出会い。我が集落中山の子ども会が、海岸でバーベキュー。ご相伴に預かる。

大人がごちそうをつくって、子どもが遊ぶといった感じ。もう少し子どもが企画を自分たちでつくって働いたほうがいいと思うが。

なぜか、私のところに来て、肩もみをしてくれる五歳の子どもがいた。うれしい。

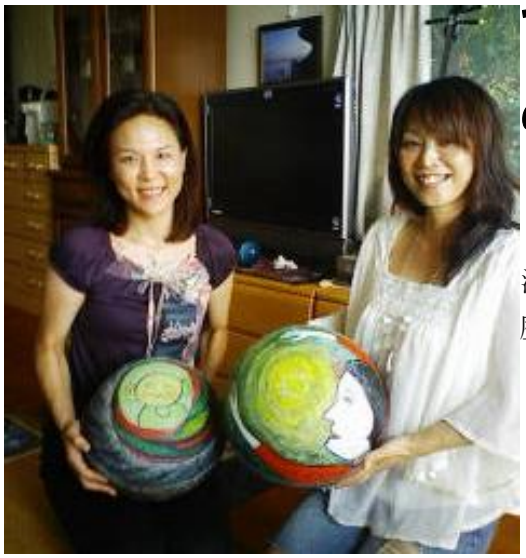
久しぶりの海岸清掃参加　　８月３０日

ビンガー通りのメンバーで、毎月最終土曜日に海岸清掃をはじめてから、２年半を越した。私はこのところ、忘れてたりしてしばらく参加してなかった。今日は久しぶりの参加。

４世帯７人で行う。夏休み終わりで、きっと「収穫」が多いだろうと思っていたら、なぜか少ない。多分、夏休み中の子ども会かどこかが清掃活動をしたあとだからだろう。

朝７時開始だが、海岸にいく農道では、農業用トラックがいっぱい。朝の農作業の真っ最中なのだ。海岸にいくと、海岸宴会をしているグループもいた。

ちなみに、このビンガー通りの女性たちが、１０月１８日の半島芸術祭 in 南城の企画メンバーなのだ。男性は、かれらをサポートする役割になりそうである。



ブイアートを抱く昔の卒業生

８月３１日

名古屋からの突然の訪問。沖縄リピーターだ。高校教師歴十年を越す超人気教師

左写真

30 年近く前の卒業生と盛り上がる　　９月７日

ワークショップに参加した彼と小倉で飲む。電話で何人もの卒業生とはなす。今後の人生創造を楽しく想像しながら。右上写真

右下は、一緒に食べた「まるわラーメン」の写真。

５０年続く小倉名物

中山合唱団特訓風景　　隣家の犬も見学？　９月２９日

本番まで２０日。４人の見学者も。そして、団員の隣人のお家の犬までも見学。

とっても可愛いこの犬、自分で飼い主がいるところを探し出して登場。

隣家といっても、ちょっと離れているし、会場は我が家のとてもわかりにくいところであるので、どうやって気づき、そしてどうやって場所を探しだしたのか、皆で不思議がった。ほんのわずかな音を聞きあてたのか。それにしても、締め切ってクーラーをかけて練習していたので、音は届くのだろうか。それとも匂いなのだろうか。

豊見城のカフェレスト「レガロ」オーナー訪問　我が家のハーブ　１１月２日

本日（２日）午前、知人とともに、オーナーの中村さんが我が家を訪問。我が家のハーブに深い関心をもたれる。

右上写真。

海岸清掃の「収穫」　１１月２９日

二年間の成果というべきか、ゴミ量が激減。以前はゴミ袋１０以上だった。他にも色々なグループがやり始めたためもあるだろうし、きれいになるとゴミも捨てにくくなるということもあろう。

磯崎主佳絵本作り講座　１２月２日

我が家で定期的に開催。今日紙版画。私も飛び入り参加

縄文シンポ　　卒業生の黒住耐二さん活躍

１２月１４日

縄文シンポで、「文化と適応　貝類利用の視点から」という問題提起をしたのは、千葉県立中央博物館に勤務している黒住耐二さんだ。

卒業以来お会いしたのははじめてだから、２８年ぐらいぶりかな。彼の世代の琉球大学生物学科から、私の授業にたくさんの学生が受講しにきて、かつ抜きんでた活躍をした。だから、よく覚えている。最近、このブログでも登場した久米島のホタルをしている人、熊野で生物教師をしている人を含め、個性溢れすぎのメンバーだった。私はかれらの専門の生物学研究でどんなふうに位置するかはよく知らないが、各地で活躍しているのをみると、相当のものらしい。

そんなかれらと意気投合して、まだ３０代だった私の授業では、私もかなり「真剣勝負」でやっていた。研究上も、自分なりの世界が開けつつあった時期だ。大学授業についての一定のものができてきた時期で、それはかれらとの協同作業だった。

黒住さんは、そのなかでもきわめて冴えていた方だ。昨日ばったりあって１分くらい話しをしたのだが、その時の授業のことをよく覚えていてくれた。

かれの研究対象は、貝類で、縄文人がそれをどのように利用していたかという発表だ。縄文期と現在とでは、生育している貝類にそんなに変わりないらしい。スライドで出てくる貝類は、我が浜辺でもよくみかけるものだ。

そんな彼の発表、そして活躍ぶりを実見してうれしかった。

２００９年

Spirit of Findhorn　スピリット・オブ・フィンドホーン in 沖縄　１月９日

これは、恵美子が運営の中心の一人になってすすめている企画だ。「案内」の一部を紹介しよう。

スコットランドのエコロジー＆スピリチュアル共同体フィンドホーンより、イアン&ロージー・ターンブルご夫妻を２年ぶりに沖縄にお迎えし、フィンドホーンで行われているワークを体験するプログラムを開催いたします。

②　2009年２月７日(土)15：00ｐｍ～　２月８日(日)14：00ｐｍ
～フィンドホーンのワークを１泊して体験するワークショップ
会場　　：　久高島宿泊交流館（098-835-8919）
参加費　：　21,000円（ワーク、１泊&3食料金込み）
＊ 定員３０名（要予約）
＊ セイクレッドダンス、テーゼ、ゲーム、瞑想、シェアリングなど、フィンドホーンで行われているワークを、イアンとロージーが場に応じて組み立てていきます。
＊ 宿泊は久高島宿泊交流館です。相部屋になる場合がありますのでご了承下さい。宿別をご希望の方は、その旨ご相談下さい。

フィンドホーン共同体について
ケルト文化が色濃く残るスコットランド北部に、Findhorn（フィンドホーン）と呼ばれる共同体があります。１９６２年の発足以来４０年以上、スピリチュアル、エコロジカルな教育活動が行われ、現在も世界中からたくさんの人々が学びに来ています。フィンドホーンに特定の宗教はありません。
全ての答えは自分の中にあると考え、瞑想などで、自己の内面を深く見ることを大切にしています。そして、自然や社会と調和して共に生きていくことをめざし、エコビレッジトレーニングなども行われています。
また、スピリチュアルな気づきは日々の生活で実践することがなにより大事だとされ、ガーデニング、畑仕事、料理、掃除など、何ごとにも愛をこめて行動するよう心がけています。（love in action ラブインアクション）そんなフィンドホーンの生活に欠かせないのが、テーゼとセイクレッドダンスです。テーゼでは、古いミサ曲を合唱してハーモニーを楽しみ、セイクレッドダンスでは、世界各国の民俗音楽に合わせて、みんなで輪になって踊ります。歌と踊りで、どんなに人が生き生きとしてつながりあえるか、
よくわかっているからです。

イアン＆ロージー・ターンブルご夫妻について
カナダの地質学者だったイアンと妻ロージーは、1980年頃、ロージーの故郷アイルランドに家族で旅行をした際、フィンドホーン共同体に立ち寄りました。その時イアンが受けた直感をたよりに、まもなく家族で移住。以来、フィンドホーン共同体の中心メンバーとして働きながら、3人の子どもたちを育て上げました。
テーゼが大好きなイアンはネイチャー・サンクチュアリを建てたことでも知られ、現在 Singing Chamber（歌

の館）を建築中。料理も得意なクリエイターです。母性豊かなロージーは、セイクレッドダンスのリード、聖地アイオナ島でのリトリートなどを担当。お二人とも、経験豊かなフォーカライザーです。

＊フィンドホーンではワークショップをリードする役目をフォーカライザーと呼んでいます

ワークショップ開催にあたって

前回２００７年１月のワークショップには､たくさんの方にご参加頂き､主催者として深く感謝しております。アンケートには、「あっという間だった、もっと交流したかった」というお声が少なくありませんでした。そこで今回は、2時間のワークショップのほかに、1泊のプログラムを企画させていただきました。

イアンとロージーの魅力は､なんといってもそのお人柄｡スピリチュアリティを大事にしつつ地に足をつけて日々生活するということを、長年実践してこられた賜物なのでしょう。そんな彼らの生き方、フィンドホーンのスピリットは、どこか沖縄の精神と通ずるものがある気がします。参加者の皆様が、この機会に彼らと心をふれあわせ、温かなひとときを共に過ごしていただければと願っています。

「玉城ゆんたく」「南城移動ユンタク」再開　　2月2日

３１日のユンタク会には、なんと１３名もの方が集った。大半が南城市内の方々だが、宜野湾からこられた方もいた。また、冬の間だけ、玉城に住まわれる方や、頻繁に南城にこられている方もおられた。

世代も２０～３０代から６０代までとバラエティに富み、男女も半々ぐらいだった。職業もまちまち

ユンタクなので、話はあっちこっちする。

私の頭のなかにも収めきれない。今思い出せるトピックをいくつかあげよう。

農業の行方
水のこと　　垣花樋川などの水質のこと
作物の話　タンカンなどの柑橘類
南城大学のこと
地域調べのこと
景観条例のこと
建築許可の駆け込み申請が多いこと
イノーの豊かさのこと
グスクロードのこと
斎場御嶽　観光のこと　聖地でのマナーのこと
地域に長く住んでいるガイドの方々
昔の東廻りが実際に歩いた道の再確認のこと
コマカ　　ウフンシー

次回は、室内のユンタクとは趣を変えて、外に出て地域調べをしようという話がでている。足元の地域のことを意外に知らないことが結構ある。

地域の人にガイドしてもらったり、自分たちで調べたりしようということだ。対象としては、グスクロードから冨里あたりはどうかという声がでている。

修学旅行民泊受け入れ　　２月４日

前々から話があった。滞在体験型観光を推進する南城にあって、私もそれに賛同して発言してきたから、当然のことだ。ただ、ｱﾒﾗｼﾞｱﾝｽｸｰﾙｲﾝｵｷﾅﾜ校長をしていたので、その余裕がなかった。

昨年秋にも、要請があったが、その時は、一週間前という突然であった。それでも対応を考えたが、その目的に「農業体験」というのがあり、我が家では難しいなあ、という感じであった。直接その学校にも連絡をとろうとしたがうまくいかなかった。

「農業体験」はタテマエで、それに類するもので、たとえば海岸散歩でもいいよ、という声も聞いたが、それはまずい、と私は考えて、そんなことを依頼者と電話で話したりしたが、向こう側から断念するとのことであった。

年明けて、民泊の際に、体験に「いつわり」があるようなものは、まずいということをとくに強調した、民泊受け入れの研修会の報道がなされていたが、その通りだと思う。

今回は別のルートからの民泊受け入れの要請があった。前から知り合っていた「琉球舞踊館うどい」の方からの要請だった。「うどい」も加わっての「島尻体験ネットワーク」が、新年度の４月から本格的受け入れをはじめるということだ。

この場合は、「農業体験」ということではなく、「民泊体験」ということで、その内容は、受け入れ先により様々でいい、ということだ。例としては、「史跡の散策、シーサーつくり体験、黒糖つくり、農業体験、踊りの体験」などがあがっている。

我が家では何ができるかは、これから考えたいと思う。

また、旅館やホテルのように食事をつくって出すというのではなく、修学旅行生自身がつくる「体験」をしながらだ、という。

なかなかおもしろそうだ。無論、未体験なので、不明な点、難しい点もあろう。そうしたことへの対応態勢もかなりできている。

ということで、引き受けた。第一回は４月の中学生だ。

ブーゲンビリアのなかのイアン　生け花を見るロージー　　２月６日

明日からの久高ワークショップのために、イギリスのフィンドホーンからきたイアンが、我が家に滞在。

３階ベランダから写す。

次は、イアンのカップルのロージーが生け花を見ているところ。我が

会場の「久高交流館」の建物正面

家隣人が生け花を実演する

フィンドホーンのワークショップ　２月７日

いよいよスタート。

久高海岸アダンの下でお昼寝　２月７日

隣は霊石

久高海岸の霊石

２月７日

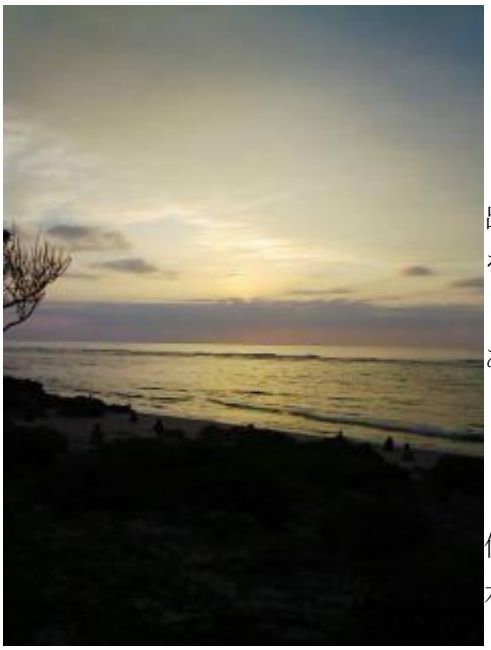
この石は、「根の石」といわれ、天から神がおりてきたところだという。

その隣で昼寝は不遜なのか、それとも神にいだかれて眠ったのか

ワークショップ中心の花とろうそく　２月７日

久高の交流館で開かれたワークショップの中心には、この花とろうそくが置かれている。

参加者の気持ちの交流の焦点だと思う。



日の出を見る

２月８日

ワークショップ参加者は、日の出前に、イシキ浜に出て、日の出を待つ。

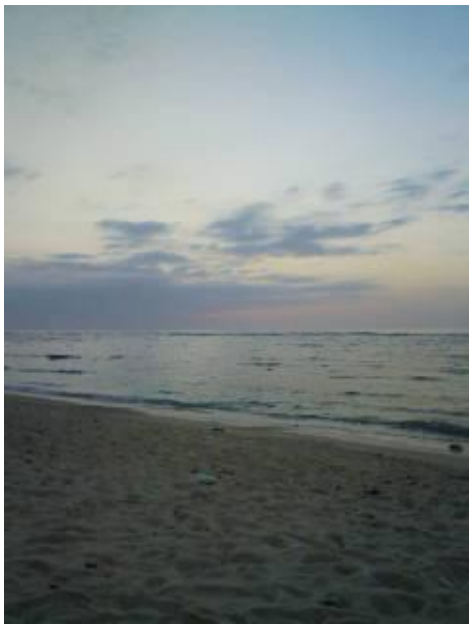
３０名の参加者たちが、２０分あまりも無言で、見つめる。

逆光で、写真では参加者たちがうまく写っていないのが残念。

私の経験からいっても、久高在住の人の話からしても、日の出が水平線から出る瞬間から見えるのは珍しい。

ところが、だ。今日は見える。

逆光線にさえぎられて、写真では見づらいが、３０名ほどの方々が、この場にいた。



フィンドホーン・ワークショップ終了

２月９日

ワークショップには３０名あまりの方々が参加した。１０代から７０代まで。

女性が圧倒的に多かったが、男性も数名

職業なども、無論多様。

ウチナーンチュが当然多いが、本土から沖縄移住した人、本土から参加した人もかなりいた。久高在住の人もいた。

ワークショップは、フォークダンス的なダンス、歌、そして語り・聞きあい、などの形をとって進む。

各自の内面にかかわることが多いが、それは、相手とのかかわり、宇宙的なもの・「聖」とか「霊」とかいったものとのかかわりとつらなって出てくる。

ある意味、各自が日常的に模索している問題が、ワークショップの活動を通して、他者などとつながりながら、深められるといった感じである。それは、身体的であり、知的であり、感情的である。そしてスピリチュアルである。

スピリチュアルなレベルがかかわるので、当然多様な反応が当然でてくる。

写真は、最後の感動続きのさようならの言葉がけ

ワークショップを平和のちからに　２月２１日

長年の知人の浅川さんが中心になって、次のようなワークショップが企画された。

「ワークショップ型授業の創造 – 創造としての学びを追求しよう」

沖縄からの浅野さんに都合をつけていただきました。実践をつくりだしていくためのヒントを発見するミニ・ワークショップです。みなさんがもちよるご関心・実践をもとに、共同創造をするというかたちですすめます。

日　時：４月４日（土）午後４時～午後７時

ゲスト：浅野　誠（フリー研究者）

会　場：JICA 地球ひろば（セミナールーム 303）協　力：平和の文化をきずく会

長男と伴走してくれた方と３２年ぶりの再会　２月２４日

私たちの長男は、１９７６年暮、３歳の誕生日直前に、異なる世界へと旅立った。その入院生活で、昼間は共稼ぎ生活のため、私達の代わりに病院で息子に付き添ってくれた方と、３２年ぶりに再会。

たくさんの思い出と、そしてそれ以降のお互いの人生について、そして息子の話などと話が尽きない。言葉ではあらわせないことがたくさん。

でも、この一年近くの体験をもとに、私達夫婦だけでなく、彼女もその後の人生をつくってきた。こんなことを確認しながら、語り合った。

この記事を書きはじめると、涙がでてきて、ここで記事はストップ。すみません。

福島大学生卒業旅行　３月３日

琉球大学時代の教え子が大学教授になり、その教え子たちが訪問。

とてもエンジョイ。昨日は、ひめゆり、アブチラガマ、イノー、地域食材での夕食づくり、語らい・・・・

今日は、近隣の聖地など、そして美ら海水族館へ

右写真は、アマムの可愛い小物に興奮する学生たち

アマムは、斎場御嶽入り口にある小物店。

当主制作のシーサーは超人気で、予約しても２ケ月しかうけとれない。

当主と我が家は親しく行き来している。

名桜大学教職学生がインタヴュー　３月３日

教職学生に求められるものについて。

教職サークルは熱心な活動を展開している。一昨年５月には、私のコーディネイトで一泊二日のワークショップをした。やる気に満ちたメンバーたち。

修学旅行民泊受け入れ…入村式　４月２２日

滋賀県の中学生。我が家には４人の女生徒

左写真は入村式風景。

右写真は、中学生と作った夕食

フーチャンプルー

刺身

魚汁

天ぷら

ソーキそば

ミミグァー

うみぶどう

パパイヤ

みんなで作りました。甲西北中学校三年４組の乙女

笑顔の素敵な４人　　４月２２日

民泊の四人。エンジョイのようです。

小雨続きでしたが、家のなかで、そして奥武島の魚店、花野果村、ＪＡ玉城スーパーでの買物などで、楽しい体験。楽しい語らい。

明日の朝、晴れれば、海岸近くまで行って、日の出をみせたいと思が、なかなか難しそう。

左下写真は、小雨のなか百名ビーチで。

民泊中学生とはもうすぐでお別れ

はじめての民泊体験　　二日間　　４月２３日

とっても短い一泊二日の民泊体験の受入体験をした。はじめてだ。

２日間の体験

２２日３時　入村式「うどい」での受入れ

４時　我が家へ　あいさつと相談

４時３０分　　奥武島のさしみ屋・天ぷら屋、花野果村、ＪＡ玉城スーパーでの買物

５時３０分　夕食づくりスタート　我が畑からの収穫もあり

７時過ぎ　　夕食

８時過ぎ　　ユンタク、エンジェルカード、夜の屋上で空・近隣の自然を見回す

９時過ぎ　　おやすみのあいさつ

２３日　６時過ぎ　中学生起床（私は６時前起床）

７時過ぎ　朝食（これは私が準備）

８時過ぎ　百名ビーチ・ヤハラヅカサ・浜川御嶽　知念半島半周ドライブ

９時前　　「うどい」へ　離村式

小雨続きで、当初考えていた屋外活動ができなかったのが残念だが、充実した時間だった。

とっても慌ただしく過ぎた。中学生にとっても私たちにとっても、新鮮さあふれる出会いだったと思う。

民泊のプラス　　４月２３日

民泊をしてみてのプラス面をあげてみよう。

中学生側にとっては、普通のホテル型ではなく、民家に入るという異質で新鮮な体験をえるなど、いろいろと

あるが、ここでは、受け入れる民家側のプラス面を考える。

１）仮の「親子・家族」体験
２）異なる生活・文化感覚をもつものとの出会い体験
３）異なる世代との出会い体験
４）異なる目を通して、地元発見
５）異なる目を通して、自分たちの生活の再発見

これらを言い換えると、日常生活のなかに、「非日常」の人たちが入り込んでくるということでの、日常生活の再発見だ。場合によっては、再創造になるかもしれない。

私たちのように初体験の場合には、慣れないために、いろいろと苦労があるが、それにあまりある豊かなものをえるきっかけを与えてくれるもののように思う。

もう一つ、民泊を受け入れる人たち相互の交流も生まれてくる。

だから、観光への対応とは異なるレベルでも、興味深いものがありそうだ。

民泊反省会　　４月２８日

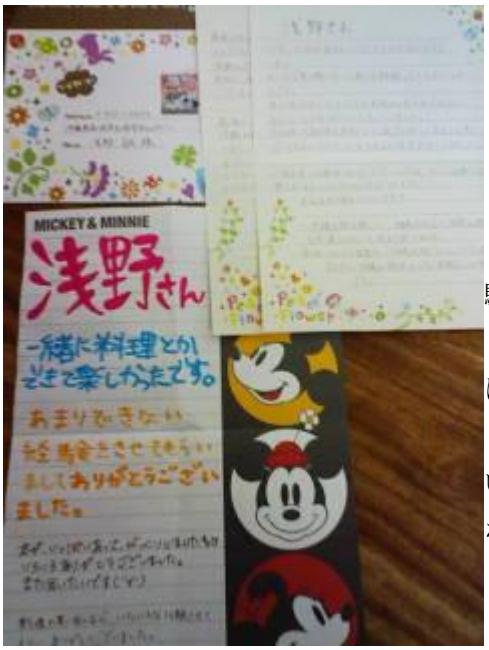
２２日の民泊の反省会があり、受け入れた家々から集まった。それぞれの体験の話を交流した。

生徒たちは、大変好感をもって受け入れられたようだ。日ごろ、元気あまりある生徒たちも、民泊のおりは、礼儀正しく、楽しい体験をしたようだ。当日の生憎の天気で、当初予定のスケジュールの変更を余儀なくされたことも多かったようだ。

空手体験。エイサー体験。シマラッキョウむき体験などなど、いろいろなあるのだなあ、と実感した。食事も大量に食べるグループと、我が家のように「上品に」食べるグループとがあったようだ。

楽しい経験交流であった。受け入れ先には、楽しい家が多そうだ。

こんな体験民泊の申し込みが、国内だけでなく、海外からもきているそうだ。



民泊中学生からいただき手紙など　　５月１日

２２日民泊した中学生から手紙などをいただいた。

写真の下部にあるのは、別れるときにいただいた四人の手紙。料理体験などが書かれている。

このブログ記事へのコメントもいただいた。修学旅行から帰ってすぐにだ。

そして、昨日、お手紙をいただいた。写真の上部のものだ。食材の買い出し、料理づくり、食事、歌、エンジェルカード、百名ビーチのことなどが書かれている。

とても印象的だったようだ。

手紙などをいただいて、とてもうれしい。また、いつかどこかで会えると楽しいだろう。

紅型体験　　４月２８日

５月２～６日のゴールデンウィークに開かれる。
おかし作り、しぼり染め、紅型、三味線の体験プログラム、玉城焼、興作さんのおもちゃ箱や、さらにいろいろな出店
私は４日の紅型体験を予約した。隣人の當山雄二さんが講師だ。
写真は、完成した紅型。後日届けられる。無論雄二さんの補正がなされている

愛媛で卒業生と語らう　　６月１日

２０年以上ぶりの琉球大学卒業生カップル、１０年以上ぶりの中京大学卒業生と、長時間語らう
皆さん立派に活躍。彼らとともに成長してきた私自身を再確認する機会にもなった
皆さんが、沖縄に関わりつつ歩んでいることが印象的
お互い、次の人生ステージを創造しつつある。次の出会いが楽しみだ

卓球大会で卒業生に会う　　６月１４日

・・・以下は卒業生自身が入力しました
尊敬する浅野先生と三年ぶりの再会です。そしてちゃっかりブログにも載せてもらいました！
全然業種も違うし、お家も近くないんですが、卓球が再会させてくれました
☆感謝です★一期一会に万歳！！

５０代に入りかけた卒業生たちの九州からの電話

６月２１日

昨晩、長電話があった。ある卒業生が校長になったので、激励のために集っているという。
全員がかわるがわる電話口に出てきて話す。私の授業を取るなど関わりの

あった面々の顔までおもいだしての会話だった。

１９７０年代後半に琉球大学教育学部に入学してきた九州出身の方たちばかりだ。当時、沖縄県外、とくに九州出身者が琉球大学に入学してきて、沖縄の学力問題が論議になった時期の学生たちだ。

当時、県外出身者は、「別に行きたい大学があったが、やむを得ず琉球大学に入ってきた」と入学動機に書いた学生たちが多かった。琉球大学教育学部では、そうした学生たちが、前向きに意欲をもって学ぶための、実に様々な教育改革を行った。その渦中に、３０代前半だった私はいた。たくさんの試みを、彼ら学生たちと教職員が一緒になってした。私の大学授業創造も盛り上がっていた時期だ。

そんななか、九州出身学生たちは、大学生活・大学教育の成果なのかどうかは別にしても、ともかく創造的熱気を感じただろう。ほとんどが、自信を持って九州の教育現場に入って行き、かなりの活躍をしている情報がたくさんはいってくる。

そんな彼らからの電話だった。

もう私とも同世代だといっていいくらいの年齢だ。彼らの創造的活躍を祈るばかりだ。

沖縄子ども研究会中西新太郎講演　　７月１２日

写真は加藤さんと中西さん

「貧困・格差社会の中の子ども・若者たち」がテーマ

たくさんの聴衆。沖縄の現状についても論議

中国茶・中国音楽のワークショップ　　８月７日

中国音楽のワークショップに先立って、中国茶のワークショップがあった。

南城市大里の嶺井にある中国茶専門店の上原さんが担当する。

この３月の台湾旅行以来、中国茶にはまっている私。台湾旅行でご一緒したお二人も参加していた。そして、台湾旅行から帰ったばかりの知人も参加していた。

今日は、安溪鉄観音（写真奥）、安吉白茶（写真手前）を楽しむ。本格的なものだ。ｅｎｊｏｙした。またまた楽しめることが増えてきた。

費堅蓉さんの演奏をがんじゅー駅で楽しむ。シュガーホール主催

本格的コンサートは、明日の晩（８日）シュガーホールである。今日は、予めのプログラムなしに数曲演奏。

なかには、沖縄にきて感じた癒しのイメージで昨日つくったばかりの曲もあった。私は中国楽器をほとんど知らない。三つの楽器が使われたが、いずれもすごく深く豊かな味わいだ。

さすが、数千年の歴史の蓄積のなかのものだ。そうした歴史性を、彼女の豊かなオリジナリティで生かしている。ということで、彼女のＣＤを購入した。

キジムナーフェスタを見に行く　８月９日

孫たちと一緒に
孫たちは初体験に興奮気味

すごいチームぶりと南国風の「雪の女王」　８月１０日

キジムナーフェスタで、孫たちと観たのは、台北の劇団が演じた、アンデルセンの「雪の女王」だった。

寒く冷たい世界を連想するが、どことなく、南国亜熱帯的な雰囲気。沖縄と同じ亜熱帯の劇団が演じたためか。沖縄の子どもたちに合っていると思う。北欧の劇団がやったら、全然異なるものになったろう。

大きな布を巧みに使って、山や氷原の広く、険しい感じ、その中を歩んでいく登場人物の感じがすごくでていた。アイデア性あふれる演出と、それを作り出す巧みなチームワークを感じる。高水準だ。私自身もやってみたくなる技だ。もっとも私が演出する機会などもうないだろう。

３７－３８年ぶりの方々との出会い　８月１４日

昨日今日と、大学院時代の知人との再会があった。

専門分野が異なるので、この間、まったく連絡もなかった方、時々の年賀状の交換以外はなかった方だ。お互い、出会いから、相互確認、会話にまでに、時間がかかった。お一人は、韓国在住、もうお一人は、最近沖縄に移住されたとのこと。

時をへだてた出会いは、何かの発見、新しい創造につながるかもしれない、とも思う。

この時期は、人の移動が活発な時、来週は、20 年前の卒業生たちとの集いも予定されている。

今日は、愛知のかねての友人だが、この 5 年間ご無沙汰している方から、9 月の愛知教育大学の集中講義についての問い合わせもあった。

２８年前の卒業生と研究仲間と飲む　８月２２日

昨晩は、九州からの卒業生、かれの研究仲間、そしてかれの琉球大学時代の同級生と飲む。なかなか元気のいい研究仲間たちだ。沖縄訪問を機に、研究、教育実践の発展を祈る。

同級生たちとは、２０年ぶり以上ぶりの人もいる。若々しく活気があるとはいえ、皆さん、人生の後半期のスタートラインにたっておられ、これからの人生創造も、一つの話題になった。

居酒屋も、２０年ぶりに、大道にあるというか、安里にあるというか、「ウリズン」だ。まわりはすっかり様子が変わった。那覇に飲みにいくということ自体が数年ぶりだ。

私の卒業生たち　９月１日

私の教え子たちは、大きく分けると、三つの時期に分かれる。
まず、１９７２年から１９９０年の沖縄大学、琉球大学時代だ。沖縄大学は１９７２年の１年間だけだったし、大学教師なりたてで、まったく下手だったので、人気最低だった。今もってつながりがある卒業生はゼロに等しい。

琉球大学では、非常勤として教えた１９７２年を含めると、１８年間教えた。全く試行錯誤で、余裕はなかったが「全力投球」であった。そのためか、私の記憶にはなくても、「変わった教師」だったので、「実は授業とったんです」と声をかけてくれる、いまや４０代、５０代の人が結構いる。

１９９０年からの中京大学では、２００３年春に退職するが、その後も３年ほど集中講義をした。愛知県中心だが、全国各地からくる体育学部を中心に多様な分野の学生に教えた。

２００４年からは、沖縄のいくつもの大学・専門学校で教えたので、結構な数になる。

以上合わせると、数千人、いや一万人近い方々を教えたことになるだろう。何をどれだけ教えることができたかというと、いささか疑問だが、良いにしろ悪いにしろ、他の教師とは異なることをしたので、印象深い教員だったことは間違いないだろう。

１９７８年ころまでは、「鬼の浅野」で、その後、徐々に「仏の浅野」へと移っていき、１９８５年ころからほぼ「仏の浅野」になっただろう。そして、２００３～２００５年ころからは「仙人」の浅野になってきただろう。

これらのおのおののステージのなかで、私は学生とともに、実践を創造的に進めてきた。というよりも進めざるをえなかった。学生が変われば、私も変わらなくてはならなかった。そのことを通して、浅野教育学、特に大学教育論が作られてきたことは確かだ。大学教育についての本を何冊も書いたが、各々のステージでの学生との出会いを濃厚に反映している。

そして、振り返ると、精一杯やってきたことは確かだが、何を教えることが出来たのだろうか。間違ったことを教えたのではないか、と気恥ずかしくなることしばしばだ。

先日、１９８０年ころの卒業生と再会したが、今回、愛知教育大学での集中講義の折りに、１９９０～２００３年以来ぶりの再会という話が出ている。

卒業生たちは、今どんなドラマを作っているのだろうか。

余談だが、最近親子二代にわたる教え子が結構いる。先日も、ニライカナイ劇場での観劇の折り、最近の卒業生から声をかけられたが、同伴していた父親から、「私もです」といわれたと思ったら、母親から「私は恵美子先生の教え子です」といわれてしまった。

２０年ぶりに語り合う　　１０月１０日

かつての教え子と研究仲間と。二人とも意気軒昂だ。右上写真八重山の過去現在未来を語り合う。

梅原龍・千恵結婚パーティー　　１１月７日

近隣の布絵画家。さちばるにて。右写真は、稲福剛治さんの祝の歌

千葉大学一行、花野果村にて、サトウキビをかじる　　１１月３０日

私の中高大の一年あとの佐藤さんの授業にて来沖。
サトウキビは、皆さん初体験。
今日１日玉城周辺を案内

キュービック・カラーセラピー

１２月１８日

色彩セラピストの山内暢子さんが我が家訪問

作られたばかりのカラーキュービックキットの活用について相談。

大変興味深い。

２０１０年

にこにこ健康会のウォーキング　１月９日

一品持ち寄り会。私は初参加。泡瀬運動公園にて
ウォーキング・昼食後は踊り。正月なのでかぎやで風。
男４名女たくさんの楽しいグループ。18 年前、コザ保健所の呼びかけでスタート。各地から参加者。月一回あちこちでしている。今回は１月なので、持ち寄り昼食会・踊りも。時々参加してみようかと思う。

奥武竜宮から久高を見る卒業生　１月１１日

今日は、本土からの卒業生ラッシュ。愛媛県から来訪。
６月に愛媛を訪問したとき、お世話していただいた

大城友弥さんのリードでスマイルを歌う会場　２月２０日

大城さんの歌をはじめて聴いたのは、３年前の「島や宝」コンサートでだった。透き通る声に魅かれた。
今回も、若くてハリ・ツヤのある声で、魅惑した。

この世界は、「丸くて」「生きる今の充実」「平和」を感じさせるものだろう。
日ごろのいやなことも、ここで忘れる人も多いだろう。４０代、５０代の女性から絶大な人気のようだ。
２０歳ととても若い。これからどんどん磨かれ、どんなにすばらしい歌を作っていくことだろう。
森田ひろみさんの読み聞かせと「たけだ」さんのクラシックピアノ演奏もあわせて、３０人余りのコージーな場での楽しいコンサートだった。

カラーセラピスト山内暢子さんと生徒さんたち

４月８日

セラピーの学習場面を見学
学び発見することたくさん

具志堅侃高体連新会長は、私の学生、私の卓球の先生だった

４月１５日

懐かしい名前が、今日の沖縄タイムスの「人物」欄に登場した。

彼は、前原高校校長だが、今回高体連会長に就任したので、新聞に登場したわけだ。今夏のインターハイ沖縄大会の切り札だ。

彼は、３０数年前、私の学生だった。当時、私の所には、体育科学生がたくさん出入りしていた。現在、琉球大学の教員とか、公立学校の校長とかで活躍している人も多い。今日の新聞ではもう一人名前を見つけた。

さて、彼との付き合いは、私の授業を受講したとか、他の体育科学生とともに私の研究室に来たとかだけではない。実は卓球つながりなのだ。

彼は、今や沖縄卓球界の重鎮なのだが、当時、卓球の実力は沖縄のトップクラスだった。また、琉球大学卓球部キャプテンでもあった（はずだ――記憶力には自信がなくなった）。

そのころ、私は卓球を始めて 2～3 年で、面白くなってはまりはじめた。当時、後任を探していた卓球部顧問が、私の所に頼みに来られた。その時、私は、卓球は初心者に近いから、私に卓球を教えてくれるなら、顧問を引き受けてもいい、という条件を、部員たちに出した。確か、具志堅君が折衝相手だと記憶しているが、ＯＫということになった。

私の顧問の仕事は、大学などへの書類作成にハンコを押すぐらいだった。それと「引き換え」に卓球練習場に何度も通い、教えてもらった。教えてくれる中心が具志堅君だった。実力的に相手にならないので、他の部員たちも一緒になって、いろいろと教えてくれた。

当時の練習場のあった場所は、今や首里城正殿前のキンピカの広場になっている。

その後、彼が教員になったとき、一緒に宮崎県串間で行われた全九州教職員卓球大会にでかけたことがある。彼は優勝を狙えるレベルにあったが、私も、琉球大学として出た団体で、他のメンバーに助けられて、かなりいい成績をもらうことができた。そのうち一人とは今もよく一緒になる。教職員大会では、今も団体では琉球大学として出場しているのは、そんな因縁だ。

私が、中京大学に転任していたこともあって、長い間、会っていなかったが、昨秋、突然、彼から電話があった。「覚えてますか」と尋ねられたが、「もちろん」である。

まだ直接の再会は果たしていないが、そのうちお会いするだろう。

子どもを守る文化会議沖縄集会の反省会　４月１７日

大成功の集会の成果と今後の発展の展望を語り合う。国の政策への提言も。大変な状態にある子どもたちのための大胆な提案へ。

「アフリカの風」開始前…木創舎にて　５月２６日

右上写真

未だ味わったことのない料理の連続…近所の料理専門家のご招待　６月２０日

左写真はいただいた料理の一端。右写真は、招待していただいた女主人のロゴ…もうすぐ那覇で開店素晴らしいレストランになりそうだ。日本・沖縄・中国をかける料理の橋になるかも

２５年前の卒業生数名と子どもたちが突然の来訪

８月２２日

卒業アルバムを見て思い出話の花開く

沖縄調査に来た高校生のインタビュー　　８月２３日

普天間など沖縄の基地問題についてのマスコミ報道と県民意識にかかわる、自由研究＝卒業研究をしている首都圏の高校生からインタビューを受けた。

大きな領域での関心事項のなかで、毎年焦点化した問題について調べ、プレゼンテーションするというのだ。3年以上にわたって、研究を積み重ねることは、自分の将来計画・進路までかかわっていく。

こういう企画を高校がするということは、大変意義深い。もっと多くの高校でしてほしい。

資料調査だけでなく、直接現地に赴いて、現地の声を聞くというのは、テーマ上必要であるとはいえ、高校生が一人旅で沖縄に来るというのは、いまどきではすごいことだ。そして、普天間周辺で、いろいろな方にインタビューして、必要な情報を得るだけでなく、強烈な刺激を受けたようだ。飛び込みでインタビューするなどの行動力には、感心させられる。

インタビューの最後に、「日本の高校生へのメッセージは？」と聞かれたので、沖縄訪問して、自然に触れ遊ぶことも意義深いだろうが、沖縄に来るなら、沖縄に人々と出会い、沖縄の生活に触れ、多様な世界があることを知り、さらに異質協同に至る体験をしてほしい、と語った。

10 月には、神奈川の高校生の修学旅行の民泊を受け入れ、かれらにどんな体験をしてもらうか考え中だが、そんな学び・発見・体験をしてほしい、と思っている。

加藤彰彦さんと私・・・野本三吉「沖縄・戦後子ども史」を読む　　１１月１８日

現代書館から２０１０年８月に出たばかりの本だ。

彼の名は、沖縄では筆名の野本三吉ではなく、沖縄大学学長の加藤彰彦の方が知られるようになった。私も「加藤さん」とお呼びしてからもう５年あまりになるだろうか。ということで、ここでも加藤さんとお呼びして綴っていくことにする。

最初にお会いしたのは、私が客員教授を務める沖縄大学での、私がコーディネイトした「教員の授業改善の取り組み支援のワークショップ」の終了後だった。当時、沖縄大学学生部長を務めておられた加藤さんと、部長室で、大学教育について話しこんでしまった時だった。

それ以来、何度となく公私ともにお付き合いいただいた。我が家にきていただいたことも何回もある。加藤ゼミにもご招待いただき、学生と話し込んだことがある。本書にも登場する「子どもを守る文化会議」「沖縄子ども白書」などでもお会いして、意見交換している。

その集まりなどでは、加藤さんから私に「もっと働いてほしい」とのメッセージを間接的表現で受けているが、これまた間接的表現で、ほとんどお断りしていて申し訳なく思っている。

加藤さんは、稀に見るフットワークの良さで、極めてたくさんの方にインタビューされ、かつ出かけたところでは必ずといってよいほど小文をしたため、それら集めてまとまった書籍を何冊も出しておられる。ただ歩くだけでなく、他の人が気付きにくいことを発見し、あるいは素晴らしいことでありながら余り知られていないことを広く話題にし、関心を集めていく役割を果たしておられ、その一文一文に、行動的思考に裏付けられたメッセージが込められている。

また、専業研究者の文章のように、第三者的な書きかたではなく、「ぼくは」という表現に象徴されるように、

ご自分の世界をかいくぐって書かれているところに特徴がある。それが多くの人に共感を作り出す一つの理由だろう。そして、それが、彼に頼まれた多くの人が動き出す理由の一つだと、私は思う。

また、そうした姿勢で読者に語りかけるような文が、読みやすさ分かりやすさをもたらしている。そして、福祉の現場に長年おられ、さらに実に多彩な福祉分野に出かけ、そこに隠れていた多様な問題を「世間の目」に触れるようにしてこられたことが、人々を、そして世の中を動かしてこられたことにつながっている。

本書は、いろいろな人が声をあげてきた問題を集め、より合わせて、一つの大合唱を生み出していくものだろう。私も多少は知っていたり、時には当事者であったりしていたことが、大きな視野の中で、新たな文脈の中で、意味を再発見した個所があちこちにある。

「知られざる日本の国境」準備の山上さんと「うどい」の平良さん　　１２月７日

１２月２１日～２６日に県立博物館・美術館で開かれる、「移動展 in 那覇　知られざる日本の国境」の準備に来沖された旧知の山上さんと南城市の「うどい」で会う。

この企画は、北海道大学が中心になり、琉球大学や沖縄国際大学も共催して開かれるもの。

小笠原・沖縄を含む国内外に離島に詳しい山上さんは、重要なメンバー。企画のポスターやチラシをもって、沖縄各地を回っておられる。

２０１１年

旧友の沖縄訪問　　１月３日

６年ぶり愛知から訪問。楽しく歓談

新郎新婦両親揃ってのかぎゃで風で始まる源さんの披露宴　　１月８日

久しぶりに沖縄型結婚式披露宴に参加

源さんたちの創造的な結婚披露宴・・私の結婚式論１

１月１０日

※写真は、幕開けに、かぎやで風を踊る新郎新婦と双方の両親

８日の源さんたちの結婚式は楽しかった。何よりも、当の二人が中心になって企画し、家族友人知人たちとともに「出演」した披露宴だったからだ。当人たちはほとんど坐っているだけで、参列者の「観察」の対象になりがちな披露宴が多い中で、主人公である当人たちが中心に坐っていた。

私たち自身の結婚式を含め、私が結婚式づくりに燃えた３０年以上前を思い出す。３９年前の私たちの結婚式は、１５００円の会費制の手作り型で、自分たちで企画し友人たちの協力をえつつ進めて行った。

その前後、同じような結婚式、あるいは「本格的なホテル型披露宴」など、シナリオ・演出・司会などを担当したものは、１０回ぐらいかな。それからしばらくすると、仲人ラッシュの時期があり、ユニークな仲人をした。

それらで私が貫いたのは、結婚する当人たちが中心であり、友人たちをはじめ参加者自身が披露宴づくりに深くかかわる結婚式だ、ということであった。そして、結婚生活同様に、結婚式は創造の場であるということである。

たとえば、二人が自分たちの「誓い」をオリジナルに作成すること、参加者は、「お客様」というよりは、二人の歩みのスタートの場を、伴走者として共有すること、などである。また、中村透さんとともにつくった音楽結婚式は、「本気」になって創った「作品」だっ

た。

それらを一つの参考例として、人生創造の節目の行事の創造をいかにおこなうか、行事演出構成などを含めて、大学の授業でも何回となく取り組んだ。残念ながら、ここ１０年余りは、結婚式にかかわる機会が少なくなり、また大学授業でも、そうした取り組みを指導できる科目を担当しなくなり、少しずつ忘れかけてきた。

そんな私自身の経験を思い出させる今回の結婚式だった。

そして、新郎新婦の現代的結婚式創造は、私自身の結婚式論と響き合うものが多く、強く共感を覚えた。

沖縄の結婚式は、こうした創造作業をする上で、とてもよい舞台だ。たとえば、最後にカチャーシーを参加者が踊る。新郎新婦の雛段と出し物の舞台が、参加者をはさんで、対面にあるという点などもいい。また、ウチナーンチュには、こうした創造的展開を楽しみ、かつ自ら出演する気持とワザをもつ人が多いというのも、有利な条件である。本来の芸能芸術は、観手と演じ手が双方を兼ねるものなのだ。

※　このあたりの「理論」とワザについては、私の文化論を参照してほしい。
　　たとえば、『学校を変える　学級を変える』（青木書店１９９６年）

近年では、会場のホテルなどが、ホテル式の演出（よそゆきの過剰演出が多い）を「与える」スタイルが多く、当人たちの希望を通しにくい問題があるが、今回は、新婦の兄弟が、式場職員なので二人の創造が展開しやすいということもあったろう。

源さんたちの創造的な結婚披露宴・・・私の結婚式論２

１月１１日

※写真は、最後のカチャーシー。舞台に溢れている。

私の注目点を並べていこう。

１）二人が主役

「誓いの言葉」　加えて、相互に気づかれない形で、サプライズの贈り物をするなど、すごい。

２）両親も出番が多い。

幕開けが、新郎新婦と双方の両親、計６名によるかぎやで風は、新機軸。これは見たことがない。今後いろいろな方が取り入れて、広がるといいなあと思う。

３）シナリオが、事前準備のままではなく、当日の流れのなかで、アドリブ的に発展するようになっている。

４）お料理に金をかけるよりも、演出を含めて、当人たちと参加者の心に残るものを創る方にお金をかけている。

５）チャンプルー型演出

色々な要素を混然一体として含みこんでいる。異和感なし。

ないのは、「神仏」。「人前結婚式」であるのでなおさら。懐かしい言葉だ。私たちもそうだった。

余談だが、会場は出雲殿なので、出雲の神様が出たがっていただろう。

６）多様な関係・つながりの要素をもちつつも、個人単位の結婚式という要素もあわせもつ。共同体的様相の強いつながりも排除せず、取り込みつつ、個人を単位とするトーンをも含み持たせる披露宴。歴史学社会学的分析

の対象にでもなりそうだ。
７）私の理論というわけではないが、一般的にいって、こうした行事は、厳粛さを基調にしたセレモニー的要素と陽気で活動的なカーニヴァル的要素とが、対照的に共存することで、豊かさを表現するわけだが、このなかのセレモニー的要素が、やや影が薄い印象をもった。
８）３００人にもなる列席者の出番をどうつくるか、という課題はなかなか難しい。会場が人数にしては狭目であったので、難しい面もあるが。狭目というのは、雰囲気を盛り上げる上では絶好ではある。ただし、雰囲気に乗りにくい人には、やや抵抗感があるが。
９）付け足しだが、マイク等の音量が高く、またほとんど常に鳴り響いていたのは、私には少々疲れを覚える感じであった。
１０）いろいろと書きたくなってしまったが、このあたりで終わろう。
　蛇足だが、私は、夫妻の「研究的実践者、または実践的研究者」としての発展を期待して、数冊の本をプレゼントしたが、今になって思えば、文化論、行事創造論の拙著を差し上げればよかったと思う。いつか機会はあろう。

松川の寿司屋「きさらぎ」とご夫妻　２月８日

　２月５日は、私たちの結婚記念日。それを記念して、思い出の場所をいくつか訪問した。そのセンチメンタル・ジャーニーでは、たくさんの懐かしい人々に出会った。
　最初に出会ったのは、松川小学校近くの寿司店「きさらぎ」の御夫妻だ。
　奥様が恵美子の最初の教え子だから、もう３５年近くのお付き合いだ。「きさらぎ」には、前の店からお邪魔している。
　この日も、松川共同住宅訪問の後、昼食に立ち寄った。残念ながら昼食はやっていなかった。昔話、そしてお互いの子どもたちの話などに花開いた。

小波津団地の懐かしい子どもたちも、いまやお母さん　２月１０日

　５日の旅。
　西原の小波津団地で最初にお会いしたのは、長女の同級生のお父さん。同級生の結婚祝いもあって訪問。
　二番目は、別のブログで紹介した、私たちの昔の家の前で、偶然に。
　三番目にお会いしたのは、同世代の方々。
　お家の前でのゆんたくに入り込んだ。
　当時、２０～３０代だった私たちも、今や６０-７０代。小波津団地もそれだけの歴史ができてきた、ということ。でも、小さな子どもたちをあちこちに見かける。３世代家族が結構多そう。道路のあちこちに人が多い。
　四番目は、突然の思いつきで訪問。

我が家の子どもたちが相互訪問して仲良く遊んだ家族。２０数年ぶりの再会。顔を見た途端に、「〇〇でしょ」と、子ども時代の呼び方で話しかけてしまった。昔のエピソード、今の話に花開く。お母さんは、大学教師なりたて時代の私の教え子。その時代の卒業生も、今や「定年」を迎える時代。そろって、我が家訪問の話題もでる。

人生物語は、誰でも興味津々。

来客に、我が家産のハーブと薬草ミックスを差し上げる　２月１９日

かつての卒業生で、現在大学教員している方が、研究仲間の大学教員とともに来宅された。

来宅記念に、我が家のハーブ（ティー用ミックス、ルッコラ・コリアンダー、チャービルなど）と薬草（煎じるためのミックス、クワンソウ、ウッチン）とを差し上げた。

いまは果物がないので残念。

研究者として活躍している卒業生も増えてきた。

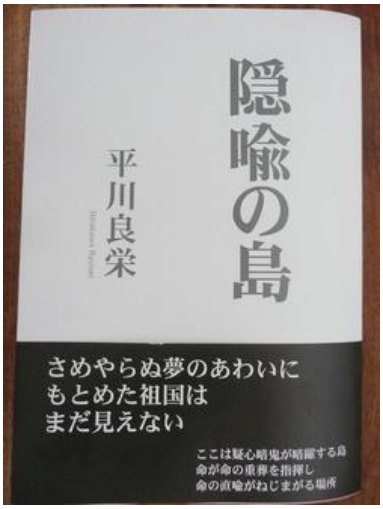
平川良栄　出版と古希を祝う集い　６月５日

６月５日午後、ラグナガーデンホテルで開かれた集いに参加した。

平川夫妻との付き合いは、私が沖縄に来たころからだから、もう３９年近くなる。それ以来、親しくお付き合いさせていただいた。

良栄さんが詩を書いていたとは知らなかった。多方面で活躍する方なので、今日思わず「もともと教えていた教科は何ですか」と尋ねてしまった。数年前、コンピュータで製作した版画をいただいたことがある。沖展には継続して出品しておられる。ほかにも、演劇・園芸なども教えておられたようだ。

詩集のタイトルは、「隠喩の島」。含蓄が深い。いただいた詩集を少しだけ拝読する。「隠喩」の意味するところをつかむには、創造力・想像力・感性・知性が必要だ。



良栄さんは、まさにロマンチストであり知識人である。こう

いうタイプの人は見かけなくなった。しかもきまりきったタイプではないし、今なお、というか、今一層、ご自分の人生を創造しておられる。
　いろいろとお世話になってきた。今後もよろしくとお願いしたい。

　この集いは、息子二人の主催だ。小学生の時以来の出会い。しっかりとした人生、そして両親から引き継いだ創造的な生き方を展開しておられるようだ。

中山豊年祭　中山合唱団「上を向いて歩こう」を沖縄語で歌う　　６月１２日

　年に一度の中山「豊年祭　出生祝い　敬老祝い」。　当初予定の５月 29 日が台風２号で、今日に延期
　例年通り盛り上がる。婦人会の踊り、子ども会の踊り、子どもたちのピアノ、そして恒例の中山合唱団
　合唱団は、『上を向いて歩こう」のオリジナル・ウチナーグチバージョン。　短く楽しく
　私が歌っていることを信じられない人のために、私が歌うシーンの写真を紹介しよう。

高校修学旅行民泊　夕陽を見る　海岸でブイサッカー　　６月２４日

　２３～２５日と、民泊高校生が泊る。とても健康で明るくまっすぐな３人だ。

私たちがいつも行く海岸へ散歩。かに・やどかりたちと戯れる。見つけた漂着ブイでサッカーを始める。

美しい夕陽に見とれる。

修学旅行民泊２　奥武島龍宮

６月２４日

今日の午前中は、タマグスク→アブチラガマ→知念半島ドライブ→奥武島龍宮→もずくそばというコースで案内。

午後は、クラスごとにマリンレジャー　台風接近だけど、実施のようだ

アブチラガマでは、強い印象を受けたようだ。

荒れた海を見るのは、はじめてのようだ。

ハーブ・ゆんたく

７月１５日

今日午後のハーブゆんたくには、私たちを含めて６名が集まる。

年齢差５０以上をものともせず､まさにゆんたく。写真は、女性の話を聞く若者たち

料理にも話がすすみ、次回は、パスタゆんたくすることになる。超若いイタリアン料理シェフの指導のもとに、パスタをつくり食べゆんたくする企画。

ちなみに、今日のハーブティーのハーブは、以下のものを単品あるいはミックスで楽しんだ。

レモングラス
レモンバウム
タイム
レモンティートリー
メキシカンスウィートハーブ
バナナミント
クールミント
アップルミント
ブラックミント

マウンテンミント
スペアミント
月桂樹（ベイ、ローレル）
セントジョンズワート

３０年ぶり　蛍・自然環境とともに　佐藤文保さん　　７月１１日

久米島ホタル館の館長佐藤文保さんは、１９７９年前後に、私のクラスを受講した。理学部生物学科同級生たち数名が連れだってきたが、一人一人が優れた人物だった。すでにクモ、蝶などといった生き物の専門家であり、その研究実績に裏付けられた自分なりの考えをしっかり持った学生だ。いまどきでいうと、すでに３０才を超すぐらいの経験と知恵を持っていた。そして、新たな課題に取り組む若いエネルギーも持ち合わせていた。教育学部生主体の他の学生に、強力な刺激をもたらした。

当時の私も若く、エネルギッシュな授業をしていた。印象が強いので、一人一人よく覚えている。その彼らと、最近再会することが多い。沖縄の縄文シンポの折、問題提起者を務めた黒住さん、熊野訪問の際にお世話になった後藤さん、いずれもこのブログで紹介した。ほかにも連絡が取れている人が３名ほどいる。

その佐藤さんの熱弁に圧倒されたのが、久米島第一の出会いだ。当然だろうが、とにかく詳しい。それだけでなく、一つ一つの知に情熱と理想が結合している。

話す情報量がすごい。私も、彼らが学生だった３０才半ばまで、こんな風に情熱的に語ったようだが、その後、「鬼→仏→仙人」になるにつれて、語ることが激減した。だが、３０数年たったのに、情熱的に大量に語れる佐藤さんには圧倒されまくりだった。

夕食会と再会　　７月１６日

夕食は、久米島在の現旧の教員で久しぶりの人たち数名と夕食会をした。

今話と昔話に花開く。二人の方は、久米島の方と結婚して、久米島を終生の場と決め、長く住んでおられる。久米島から沖縄本島に移住される教員が多いなか、貴重ともいえる方たちだ。私の印象では、都市的な本島市街地に住むより、ここがずっといいと思う。私たちが玉城に住んでいるのと同じような感じかもしれない。もし本島に用事があっても、１時間で行ける。

お一人は、約３５年ぶりの再会だ。直観的に思い出した。昔の面影がばっちり残っている。こうやって、思い出してお会いできることは嬉しい。当時の私は、「鬼の浅野」といわれていたのに、よく再会の場に来て下さったと恐れ入る。

もうお一人は、３５年以上前のゼミ生。卒業後、久米島で教職に就いた折、学生たちを連れ、彼の授業を見せた。私の久米島訪問はその時以来なのだ。彼とは、その後、数回会ったことはあるが、この２０数年間はお会いしていない。彼は、久米島で教員生活の半分ぐらい勤めている。

そして今､校長として再び久米島に赴任している。その晩も、地域父母懇談会をすませてからの参加だった。

それにしても、とっても若々しい。風貌は学生時代とまったく変わらない｡印象も､とても穏やかで、やさしい。しかし、その熱情はすごい。

次の日の午前は、かれが久米島巡りをしてくれた。

写真は、その時、鳥の口で写したものだ。年の差はそれほどでないのに、私が老けて見える。というより、かれが若々し過ぎる？

私は、当時、大学教員なりたてで、授業がなかなかうまくいかなかったころだ。卒論指導も厳しいだけで、上手くなかった。とくに女子学生には泣かせてばかりいた。数少ない男子学生だが、卒論への情熱はすごかった。１９７５年までの男子卒論学生のうち３人が現在校長をしている。時の移り変わりは不思議なものだ。

さしきスポレク卓球クラブ飲み会　　７月１７日

２５才から８０才まで集う楽しい世界　　右写真

民泊いろいろ　学校によりけり　　７月２０日

年一回ぐらいのペースで、中学生高校生の修学旅行民泊を引き受けるようになり、３回経験した。

それで気づいたことの一つは、学校の対応の差異が激しいことである。

両端のケースを紹介しよう。学校を特定しないためと分かりやすくするために、少々『作り話』風に書こう。

一方には、学校・担当教師の教育的狙いが鮮明で、そのための準備活動がしっかり行われ、当日も教職員が民泊家庭を訪問するなど、できるだけかかわる。そして、生徒も、事前準備だけでなく、当日も自分たちの希望と計画をもって、民泊先と調整しつつ民泊を進める。

もう一方は、宿泊先が、ホテルから民家に代わっただけだという対応だ。学校は、特別の教育方針などなしに、民家側に「丸投げ」し、生徒もちょっと変わったホテルだというとらえ方で『宿泊』する。客顔でホテルに対し

て行う『苦情』を出しかねない雰囲気である。

終了後の両者にも違いがある。住所交換した生徒から、御礼の手紙などが寄せられる学校、なにもない学校。
民泊は、すごく気を使う。回数を重ねれば、慣れてきて、気づかい量が減るかもしれないが、終了したしばらくの間は、二度としないでおこう、という気持ちさえ出ることがある。でも、生徒から手紙がくると、そんな気持ちが吹き飛ぶ。
経験が長い所では、何年も交流が続くことがあるという。

民泊は、一つの大きな体験と交流だと思う。それを促進させるようなありようを追求したい。

パスタゆんたく　8月19日　　7月２９日

７月１５日のハーブゆんたくの報告は、当日の記事で書いた。参加者の一人に、学生兼若いシェフがいた。彼の話で大いに盛り上がった。彼は、高級イタリアンレストランで４年も働いていて、かなりの腕前のようだ。
ということで、２回目のゆんたくは、我が家で、以下のように開くことになった。
８月１９日（金曜日）
料理づくりは１２時開始　見学実習希望者は、１２時集合
パスタゆんたくは、２時開始
参加希望者は、料理の都合があるので、事前連絡のこと。材料実費を徴収する。前回同様、ハーブティーはあり。庭畑散策希望者は、蚊にさされない服装が必要。
多様な方々の参加を期待しています。

霧多布の写真家　大坪俊裕さんの写真　ＮＨＫテレビに登場　　８月５日

４日朝、なにげなくＮＨＫ「あさいち」を見ていると、北海道の浜中町霧多布がでてくる。
２００３年１２月に訪問したところだ。釧路生活指導研究会でのワークショップ、そして、霧多布小学校での小学生相手のワークショップをすることが主目的だった。
当地に住んでいるかつての教え子の大坪さんに霧多布周辺を案内してもらったので、大変懐かしい。
テレビを見ていると、霧多布湿原の動物たちが登場。その中の写真のテロップに、「大坪俊裕撮影」を見つけた。
８年前の訪問以来、お会いしていないので、大変懐かしく思い、突然の電話をする。
懐かしい声が聞こえる。元気に活躍のようだ。

我が家には、彼が写真家としてデビューして間もないこ

ろの写真がある。裏磐梯の写真だ。１０数年前のことだ。それ以来、我が家に飾ってある。
楽しい思い出がよみがえってきた。
プロカメラマンとして、前進に前進を重ねているようだ。

「移住者ゆんたく」の案内　　８月９日

この近辺も、少しずつではあるが、移住者が増えてきた。その多くは、地域の集落の中に、長年住んでいた方々と一緒になって住まわれている。どこかで見かけるような、移住者だけが固まって住む例はあまり見かけない。移住者といっても、県外からだけでなく県内からの移住者も結構な数になる。
それだからか、人々とつながり協同し合うことを好む方が多いと思う。それでも、気候や習慣の違いからの戸惑いがあるかもしれない。たとえば、台風がくるから大変だ、と対策を考えようとするが、農家の方が対策に大変なのはわかるが、そうでない方は、それほどの対策をするわけではなく、「過ぎるのを待つ」といった感じだ。私も、沖縄生活を始めた４０年前、地元のそんな光景にとまどいを覚えたことがある。
ということで、移住者の方々の「ゆんたく会」を持とうという話を、花野果村の大城浩明さんが提案なさった。そこで、会場として我が家を提供することになった。
８月２７日（土）　２時～
我が家には、特別の駐車場がないので、花野果村に車をとめて、まとまって我が家に来るということなので、２時少し前に花野果村に集合して下さい。
問い合わせや当日進行については、花野果村の大城さんが担当します。
では、お待ちしています。

パスタゆんたく　贅沢な料理の連続　　８月１９日

今日の我が家でのパスタゆんたくは、予想をはるに超えるレベルの料理に、びっくりの連続。

２大学から学生９名、近所の料理名人の方を含めて、いい年の大人５名。

私は午前中、材料買い出し、畑の材料収穫に追われる。近所のスーパーでは、モッツアレラチーズは販売されていず、急遽連絡を取り合って、そろえるシーンもあった。

料理は本格的で、かつ品数が多い。皆でたらふく食べる。

お店で食べるとすると、一人当たり１万８０００円だとのこと。若いが凄い腕のシェフだ。それが学生にいるなどとは信じがたいことだが、「事実は小説より奇なり」

腹も、人間関係も満腹で終了。４～５時間の楽しい時間だった。

では、料理写真を並べていこう。

前菜

ベビーリーフとペコロスのグリーンサラダ

トマトとモッツアレラチーズ

メイン

バジリコとトマトソースのパスタ

ボンゴレ・ビアンゴ

ジェノベーゼパスタ

ミネストローネ　　写真にとりそこねた

デザート　アップルのあったかアイス盛り

震災避難移住も　移住者ゆんたくに２０人以上集まる

８月２８日

２７日午後、花野果村さんの主催で、我が家でもった「移住者ゆんたく」には、２０人を超す方が集まり、びっくり。ほとんどが初対面と思いきや、海岸散歩中に出会った人、台湾で出会った人、半島芸術祭で出会った人、と言った方々もいた。それでも全くの初対面が半分以上で、結構たくさんの人がいるなあ、と実感。

中には、震災避難をきっかけに、そのまま沖縄に移住しようという方が、何人もおられた。沖縄でできたつながりに「ほだされて？」、新しい人生創造へと、スタートという感じ。

それまでの仕事を終えて、というように、私と同世代の方もおられるが、今回は、若い人たち、夫婦・子どもでの移住が多いことに驚いた。震災・原発の影響が小さな子どもに及ぶことを避けるために、あるいは、自分たちの将来を考えてのことのようだ。沖縄での仕事探しには苦労することが多いようだが、才能やワザのある方が多く、それをもとに決断なさっているようだ。

私のハーブティーが大変好評でうれしかった。

こんな風に、移住者のありように大きな変化が起きている。

花野果村でのつきあいをきっかけに、新しいつながりがさらに広がりそうだ。

私の「沖縄田舎暮らし」愛読者もおられた。

田港朝昭先生の突然の元気な来宅

９月２３日

※写真は、我が家ベランダから夕陽を背に
田港先生を写す

昨日、二人で出かけた買い物から帰ると、見慣れない車が我が家駐車場に止まるところだった。

田港先生だ。

ご自分で運転して、我が家を探してこられたとのこと。５０年以上前、知念高校教諭だったので、こ

のあたりは家庭訪問で回ったことがあるとのこと。でも、我が家はわからないので、南城市役所に行き、航空写真地図で我が家を〇で囲んだものをもらって、来られたとのこと。ご自分でこられた第２号である。私たちの案内なしで自分でこられた人のうち、９０％以上が迷うなかで、「感心」の一言だ。

１０月９日の、私の本を素材にした研究会参加のために、予め場所確認でこられたとのこと。右足が不自由で杖が手放せないとのことだが、首里からご自分で運転してこられた。驚きだ。

久しぶり、ということもあって、話はえんえんと続き、ご一緒に夕食をし、私が卓球ででかけるので、佐敷まで私が先導し、そこからご自分でお帰りいただいた。健康のため、毎日数千歩歩いておられるとのこと。

もう８０歳を越されたという。昔話から今話まで話がどんどん進む。

先生とは、１９７２年にお会いして以降の付き合いだが、近年は、数年に一回となってしまった。大変お世話になった。研究・教育活動をともにするだけでなく、日常生活でも大変お世話になり、また卓球も長い間、ご一緒した。卓球は、６０代で優勝したが、その後は、体のこともあり、やっていないが、私が卓球に行くと話すと、やりたそうにしておられた。

毎日の日課として、重要新聞記事社説のタイトルのワープロ入力をしておられる。歴史研究者らしい。そして、アジアアフリカラテンアメリカを結ぶ社会的活動などを展開しておられる。また、興味深いのは、西原サンエー内の散歩を毎日のようにしておられることだ。右足が不自由な先生にとっては、このように【整備】された場所は絶好とのことだ。そこで、かつての卒業生によくお会いになるそうだ。

恵美子のシンギングボールに興味津々で、実演の段階まで至るが時間切れだった。

これからも長いおつきあいになりそうな気配だ。

ドラゴンフルーツ、サトウキビ、やどかり　民泊高校生　　１０月２０日

１８―１９日、福井からの修学旅行生が泊った。近所の散策、沖縄産素材の食事など、いろいろと楽しんだ。今回は、私が退院直後ということもあり、近所の御協力もいただいた。

写真は、我が家屋上産のドラゴンフルーツゼリーを楽しんでいるところ。

海岸でヤドカリに夢中の彼女たち。1時間以上も夢中。きれいな貝殻も見つける。

散歩中に出会った近所の方からの差し入れサトウキビに挑戦している風景。

モズクも大変お気に入りになった。

近所の方には、近くの史跡などを案内していただいた。

大変明るく元気よい高校生だ。生活福祉を専攻し、将来福祉関係で働くかもしれないとのこと。きびきびと行動するしっかり者たちだ。

ヤドカリ　砂絵描き　夕陽　三線鑑賞　民泊第二陣　　１０月２４日

今週は、修学旅行民泊が続く。今回は、神奈川から男子高校生

またもやヤドカリにはまる。１日目の中山海岸でも、２日目のヤハラヅカサ近くでも。そして、砂のうえに、彼女の名前と自分の名前を書いて、ご満悦。若いってことはいいなあ。百名ビーチ。

夕陽にもご満悦　中山海岸。

最後の昼食は、近隣宅にて。ご主人の三線を楽しむ。この後カチャーシー初体験。

とてもやさしくおだやかで、高校生活満喫の運動部系若者たちだった。

懐かしい方々との再会　西原町史出版祝賀会

１２月１１日

９日夜、西原公民館でもたれた。

１４年間住んだ西原なので、もしかすると懐かしい人に会えるかなと思っていたが、２０年ぶり、３０年ぶりといった方々と懇談できた。

最初の写真は、現在、西原町の教育委員長をしている松岡さん。30 年ほど前、研究会でしばしばご一緒した。閉会の挨拶をしておられるところの写真だ。

二枚目の写真は、私の最初の卒論学生だった名護さん。１９７２年の話だ。現在は浦添市立図書館長。声をかけられなければ、わからなかった。写真でみると、どちらが教師でどちらが学生だったのか、クイズものという感じだ。

沖縄赴任で最初の一歩を踏み入れた那覇港で迎えてくれた稲福さんにもお会いした。その後、西原町教育長を務められた。

いつもは卓球大会でお会いする小川さんも、実は長い間、西原の教育長だったが、ここでもお会いできた。

ベテランだけでなく、昨年伊江島を訪問した際に案内してくださった川島さんにもお会いした。

肝心の、西原町史については、編集担当責任者の安里進さんと、短時間だが、話すことができた。

他にも、出会いが多く、楽しい 1 時間 30 分の会だった。これを機に、西原との付き合いが増えそうだ。もしかすると浦添との付き合いもできるかもしれない。

『浦島太郎』の私がだんだん現実の沖縄に出会い始めた感じだ。

２０１２年

「また沖縄行きたいっす！」　民泊高校生からの手紙　　1月７日

　１０月に福井と神奈川の２校の修学旅行民泊を受け入れたが、年末に高校生からの手紙が届いた。
いくつか抜き書きをしよう。

海へ行った時は、やどかりがたくさんいて、楽しかったです。
沖縄の伝統的料理を食べることができ、とてもいい経験ができてよかったです。
みなさんとお話をして沖縄の人々の優しさ、温かさを心で感じる事が出来ました。
もずくがとってもおいしかったです。また、ご飯を食べた後にした三味線やお話、みんなで歌を歌ったりすることができて、いい思い出になりました。
初めて会った時は、少々不安で心配でしたが、とても気さくで、明るい方々で安心しました。
海ではヤドカリで遊んだりカッコいい貝とか見つけて久しぶりに小学校の頃に戻ったみたいに遊びまくってて楽しかったです。○○（高校生が今住んでいるところの地名）の海は汚いしヤドカリも居ないからすごくつまらないし、人が多いからあまりリラックスできません。しかも沖縄から○○に帰ってきてからすごく沖縄が恋しくなります。沖縄はみんな優しいけど○○の人間はみんな冷たいです。これから色んな人が沖縄に来ると思います。だから少しでも長生きして色んな人に沖縄の良さを教えてあげて下さい。死ぬまでにあと５回は沖縄に行きたいな。
最初に会ったときから場を和ませるための冗談を言ってくれたりと、とても明るく気さくな人だと思いました。浅野さんのその明るい人柄のおかげで自分たちは、とても話しやすく、冗談にも乗りやすかったです。
修学旅行で１番楽しかったかもしれません！笑　あー、また沖縄行きたいっす！

ーーーーほめすぎだとは思うが、このように書いてもらうとうれしい。

放射能を避けての避難者たちが訪問

２月１４日

　１２日午後、２組の母子の方々が訪問された。おひと方は、随分前に一度お会いしたとのことだが、すっかり忘れていた。
　子どもたちが元気よく我が家を飛び回って遊ぶ。１１日も別の子どもたちが来訪したが、子どもたちの来訪は、我が家のトーンをすっかり変える。
　８月に、我が家で移住者の会をした時も、避難者

の方が多く、いろいろと考えさせられたが、今回もそうだ。沖縄にいると、震災・原発への対応は、どうしても間接的なものになってしまう。
　考えさせられたことを並べよう。

・原発事故の後の風向きで、放射能汚染は地域差が大きいだろうが、東京周辺でも強いところがあり、避難を考えた人が多い。特に乳幼児を抱えている場合にそうだ。
・危険を感じながらも、避難を検討する条件にある人はそう多くはないようだ。経済的理由、地域の人間関係・職場・保育施設などの事情によるだろう。
・家族の中でも、いろいろな意見・判断がでてくるようだ。
・避難先として、沖縄は適切なのかどうか、という問題。
余談だが、沖縄に来る 1972 年に、私が一番気がかりだったのは、不確かだが核が残されている可能性、あるいは基地にあることでの戦争に巻き込まれやすさをどう考えるか、といったことだった。しかし、判断しようがなく、まずは職の確保が最優先だった。
・沖縄にどのくらいの期間、滞在するのか。
　長期に滞在するとすれば、人間関係、子どもの養育・教育、仕事、といった色々な問題が新たに登場してくる。
　移住ということも視野に入れなくてはならない。家族そろっての移住で職の見通しがある場合は、避難をきっかけにして移住にすることもでき、すでにそうしている人も出そうだ。
　一時的避難が長引く場合に、どうするか、判断が難しいだけでなく、現実的な生活構築が求められる。
・行政・ボランティア・ＮＰＯ等の支援がしばらく続くので、避難生活の条件があるが、それが少なくなってきた時にはどうするか、という問題も出そうだ。

　いろいろと新しい問題が登場してきている。
　それにしても、皆さん、沖縄で母子ともに新しい生活・出会いを充実しておられることが立派だ。

ブログを通しての２０～３０年ぶりの再会　　２月２０日

　このところ、ブログをとおしてのビックリ出会いが続いた。インターネット検索していて、偶然私のブログにたどりつき連絡された例が多い。

　その一人は、かつての同僚だ。私が 1990 年に琉球大学を離れて以来初めてつながった。先日、彼の生まれ故郷に立ち寄ることがあり、レストランで消息を尋ねたことがあったが、そのレストランの方が連絡してくださったのか、とおもいきや、彼がインターネット検索で、私の消息を知ったとのことだ。まさに偶然だ。英語で言えば、Coincidence だ。
　いつかどこかで、実際にお会いできそうだ。お互いが 20 代から 30 代の時には、よくスポーツでご一緒した。彼がピッチャーで私がキャッチャーということも、数え切れないほどした。思い出がたくさんある方だ。

　かつて、私の授業を取ったという二人の方も、最近連絡があったが、おそらく私のブログを偶然見つけての連絡だと思う。教育学部ではなく、他学部の学生で、教職科目ないしは教養科目の受講だった。「鬼の浅野」から「仏の浅野」へと移行する時期だ。もう「いい年」になられ、それぞれの場でご活躍のようだ。

山口県で活躍している卒業生から、３０年ぶりに連絡をいただいたこともある。
随分前だが、中学生時代の息子の部活顧問だった方からメールをいただいたこともある。

ブログをふくめインターネットの威力というものをつくづく感じる。
つい最近、わけもわからず、フェイスブックに登録したら、たくさんの人から「お友達になりましょう」というメッセージが来た。中京大学時代の卒業生からが一番多いが、先日まで受講していた沖縄県立看護大学の学生さんも多い。他にも懐かしい名前が連続する。
しかしながら、フェイスブックがよくわかっていないので、先日ガイドブックを買ってきた。しばし勉強してから対応を考えよう。

こんな新しい出会いが続いたことが影響しているのかどうかわからないが、２月に入って、このブログへのアクセスが激増した。なぜだか、よくはわからないが。
でも、このブログからの発信を大切にしなさい、というメッセージだろうと考えるしかない。
どれだけ続けられるか分からないが、ブログ記事作成は、現在の私には大切な日常習慣になっている。

２０１３年

豊かな出会いの正月　正月風景　　１月５日

今年の正月は、例年になくたくさんの人との出会いがあった。いつもだと数人ぐらいなのが、今年は２０人を超す出会い。それだけに豊かさを感じる出会いだった。いくつか並べよう。

１）多文化家族との出会い。ウチナーンチュだけ、ヤマトンチュだけ、私たちのようなウチナーンチュとヤマトンチュの組み合わせの家族との出会いは日常的だが、今年はさらにアメリカ・中国からのメンバーを加えた複数の家族との出会いが強い印象を与えた。多文化時代が、私のまわりでも一層広がっている。

２）最初の出会いを４０～３０年前にした人との改めての出会いもあった。教師と学生の間という関係から始まった出会いも、いまや近しさを感じる６０代、５０代の相互関係だ。「同じ世代だね」というと、拒否されるが、笑いながらだから、完全拒否ではなさそうだ。

３）よく歩いた。正月で卓球練習場がお休みなので、歩くことで身体調整をしたのだ。ちなみに、わが携帯電話の歩数計は、こんな風に記録している。
　３１日１０６１０歩　　１日６８２５歩　　２日１１８４８歩　　３日７８１０歩　　４日１０７８８歩

４）なぜか、がらがらとやる抽選を２回もするが、合計１０個すべて白という、大変縁起の良いスタートだった。つまりすべて「はずれ」だったということで、シャーペンとティッシューをいただいた。沖縄ワールドとメイクマンでの話。メイクマンでは、２００人ぐらいの長蛇の列で、抽選を待ったが。

５）普天間飛行場近くのお宅を訪問して、オズプレイを間近でみた。１月３日朝から、８機目、９機目という具合でうるさい。

　写真は、散策中の中山・冨里間の旧道から写す

安座間のじょーＧ　幼稚園生と海岸散歩　南城学童研修　　１月１９日

このごろの話題を三つ　１３日、親戚といっしょに食事へ。ブログで前から気になっていた、安座間のじょーGに出かける。安座間港にある。沖縄風の親しみやすくこじんまりとした店。私たちのグループのほかに、地元の少年野球のお父さんたちの飲み会。

残念なことに、この日は海が荒れて、とれたての魚がない。でも、いろいろな種類のメニューを楽しむ。沖縄おでん。そーめんチャンプルー。マグロのさしみ。ぶりのおかしらの煮つけ・・・・。

味がすごくいい。上品というか、奥行きがあるというか、かなりの腕前のシェフだ。割烹でやってこられた方が、地元で開店ということだ。家族でやっておられる。

今回は、カメラ持参でなかったので、次回は持参して記事を作りたいと思う。

１４日、我が家を来訪したかたの幼稚園生のお子さんに海岸散歩を誘ってみると、すぐに行くことになった。元気がいい。坂道をスキップしながら、海岸へ。途中の畑のホウレンソウやサトウキビなどの名前も知っている。海岸に着くと、すぐに貝殻集め。カラフルなのを集める。そして、生きてるでかいカニを発見。さらに、イカの甲も発見。

突然、オズプレイが、北東方向の百名から南西方向の奥武島へと至近距離で飛ぶ。このあたりでは、初めて見かける。子どもが「爆弾落とすの？」と聞く。「爆弾はもってないと思うけど」といっても、「怖い。帰ろう」という。帰ることにする。

元気のいい素敵な子だ。

１７日、南城学童連絡協議会の方が来訪。研修の相談だ。

いろいろと話していくと、共通の知り合いの話が１０人ぐらい出てくる。南城は狭いのか、学童つながりというのが凄いのか、ともかく、話があちこちに飛ぶ。卓球仲間、ブログ仲間・・・・

お陰で、本題を始めるのに時間がかかってしまった。本題は、南城の学童指導員の研修。

２月１４日午前、南城市大里庁舎でやることに決まる。またまた楽しいワークショップになりそうだ。

１２種のハーブティーを楽しんだお茶会　　３月１８日

１６日午後、開催。

午前中にハーブを収穫して、写真のように一品ずつ容器に入れる。

アップルミント　クールミント　スペアミント　スイスリッコラミント　ペニーロイヤルミント
タイム（３種）　ローズマリー　セントジョンズワート　レモンバウム　ジャーマンカモミール　メキシカンスイートハーブ　オレガノ
残念ながら、定番のレモングラスは、台風の大打撃以後の回復が遅くて、まだ出せない。

他にお土産として、ナスタチウム、ルッコラ、イタリアンパセリ、コリアンダー、チャービルの野菜ハーブを用意した。
我が畑に育っているハーブは現在４０種近く。８年余り９０種ほど試行錯誤した末、この地に適合的なものがおおよそわかってきた段階だ。

来客は、少人数でこじんまりだったが、近隣からの０歳から７０代まで、多彩だった。
各自の好みのハーブをポットに入れ、楽しんだ。いつもは私がブレンドするが、今回は各自にお任せした。ユンタクもあっちこっちだ。
こんな気楽な会をまた開きたい。

出会い　このごろの私

６月８日

来週、沖リハの授業が終わり、琉球大学の授業（毎週土曜の集中型）が始まるから、週に３つの大学・学校に通う生活に変わりはない。加えて、週２回の卓球練習がある。
これらのレギュラー日程のほかにいろいろなスケジュールが入る。
先週土曜日には、学童指導員研修のために来沖された茂木さん（桜美林大学教授、前都立大学総長）と、ほぼ３０年ぶりに再会。学童指導員たちと楽しく懇談。茂木さんは、大学院時代の先輩で、いろいろとお世話になった。変わらなく元気なお様子。
昨年１１月の須藤さんとの再会など、学童はいろいろな出会いの機会を与えてくれて感謝である。
今週には、齋木さんが代表者である、科研費による川平朝申研究の研究会がある。若手研究者との共同研究を楽しみにしている。
こんな風にちょこちょことスケジュールが入り、結果的に卓球を除いても、週４～５回出かけることになる。８月になると、ようやく一息つけるので、しばしチバリヨーだ。
私の精神的栄養補給は読書だ。２~３ケ月に一回、ジュンク堂に出かけて、本を購入して読むというサイクルで、ここ数年の研究生活がまわっている。５日に前回４月初めに購入したものを読み切ったので、６日看護大学授業後にジュンク堂に赴く。今回は、沖縄関連３冊、ハーブ・植物・医療健康４冊、社会・政治関連２冊、歴史関連２冊、教育関連１冊、生き方論１冊、総計１３冊２万円余購入。８月初めまでの栄養物だ。

沖縄教育史での新しいステージへの芽　我が家での研究会

７月１６日

１５日午後、我が家で６人のメンバーが集まって研究会。旺盛な研究活動を展開している４０代を中心にした集まりで、全国から集まる。実は１４日の沖縄文化協会研究発表会で問題提起をした方々が、この機会に論議を

深めようということで集まったのだ。

開始前、お二人を、近辺の史跡などへ案内した。佐敷上グスク、馬天御嶽、民政府跡、タマグスク、糸数グスクを訪問した。写真は民政府跡。戦後の重要な『史跡』だが、今ではこの碑のみ。とても分かりにくい所で、訪問者も滅多にいない印象。

この民政府で文化行政に携わっていた川平朝申は、参加メンバーの共通関心人物だ。

研究会では、私が討論材料を提供したのだが、さすがプロ研究者とうならせる発言が続く。そのなかで、私自身が発見・再確認したことを一つだけ記そう。

沖縄教育史研究は、１９７０年ごろまでは、戦前からの継続的な印象が残り、首里王府中心のものだったり、「近代化」を賛美的に綴るものが多かったが、１９７０年前後より、そうしたものを批判的に検討し、たとえば、上からの政策展開とそれに批判的潮流とのせめぎあいを明らかにしていくというような、構造的な研究提起が広がって行く。

そして、１９９０年代に入り、研究の量的増大、質的な広まり深まりが見られるようになり、今日に至っている。その際に、質的な広まり深まりは、新たな研究ステージを構築しつつあるのだが、それがどのように意識的にされているかと言うと、まだ見えにくい状況がある。そのあたりに関わって、意識的な作業をおこない、そのステージを明瞭にしつつ、新たな研究を進展させる作業が求められているといえよう。

終了後、奥武島海産物食堂での語り合い、さらに我が家で開花したサガリバナ鑑賞、星空鑑賞が付属した。

世代が異なる方々と研究討論していると、多様で強い刺激があり、私の脳が活性化し、研究したい事がどんどん増えてくる。

等身大人形「勝連のおばあ」　話しかけるのが好きな私

８月５日

写真は、勝連城跡前の案内所に置かれた人形のおばあ。最初は、本物の人間と思ったが、近づいて人形だと気づいた。イチハナリアート・プロジェクトの一環として制作されたようだ。実に良くできている。

地元のおじさんが、「ウチナーグチで話しかけると、返事が返ってくるよ」と言うので、恵美子は必死になって、「ハイサイ」などと話せないウチナーグチで話しかける。すると、おじさんは『冗談だよ』と。

こんな会話は、実に楽しい。

「話しかける」で、最近の私は、こんな外出をすると、初対面の人に良く話しかけていることに気づく。
その日話しかけたことを思い出して並べよう。
１）勝連城跡の「三の曲輪」の木陰で涼んでいる父子に、『気持よさそうね』
２）写真撮影しているカップルに、シャッター押してあげましょう。
３）城跡をめぐる三人グループに、「あなたたち高校生？　大学生？」　すると、「高校生に見られた」と喜ばれる。
４）東南植物楽園の受付で、係の人とユンタク　　「９６歳以上無料って、本当」以下、２分ぐらい
５）イギリス王立植物園商品が飾られているショップの担当者に、「ここのデザインは素敵だが、どこかで見た記憶がする。他にどこにあるのかな。沖縄にはないだろうが、本土か欧米かどこかで。どこかわからない？」
　新人職員がほとんどのここでは、答えは難しそう。
６）我が家でも育てている植物だが、美しく咲いていたもの。通りかかった、今度はベテランらしき人に、デジカメ写真の花を見せながら尋ねる。「コスタスです」とのこと。
７）休憩所で、隣に座ったおばあさんと孫と知人らしき方々と、しばしユンタク。近くのレストラン情報ももらう。
８）コザのパークアベニューで食事。ここでも、たくさんユンタク。なんと、シルバーセンターが運営しており、シルバーの方々が働いている。本当にシルバーなの、という感じの人が多い。メニュー表が、絵手紙風の色紙に、ゴーヤチャンプルーとか書いてある。とても上手だとほめたら、「書いたのは私です」との答え。横の人が「この方、美術の先生していたんです。」

　美味しく頂いた後、店に在る小物を見る。メンバーたちが作ったものだ。写真のフクロウカップル人形を購入。

　こんな具合だ。他にも何人か話しかけた。恵美子としか会話しない日が多い中、新鮮な出会いは楽しい。黙ってすれ違うのは好きではない。なぜか、声をかけたくなる。相手にしてみれば、「余計な節介」になることがあるかもしれない。でも、そんな雰囲気を感じる人には話さないことにしている。

ユンタクお茶会　　８月２８日

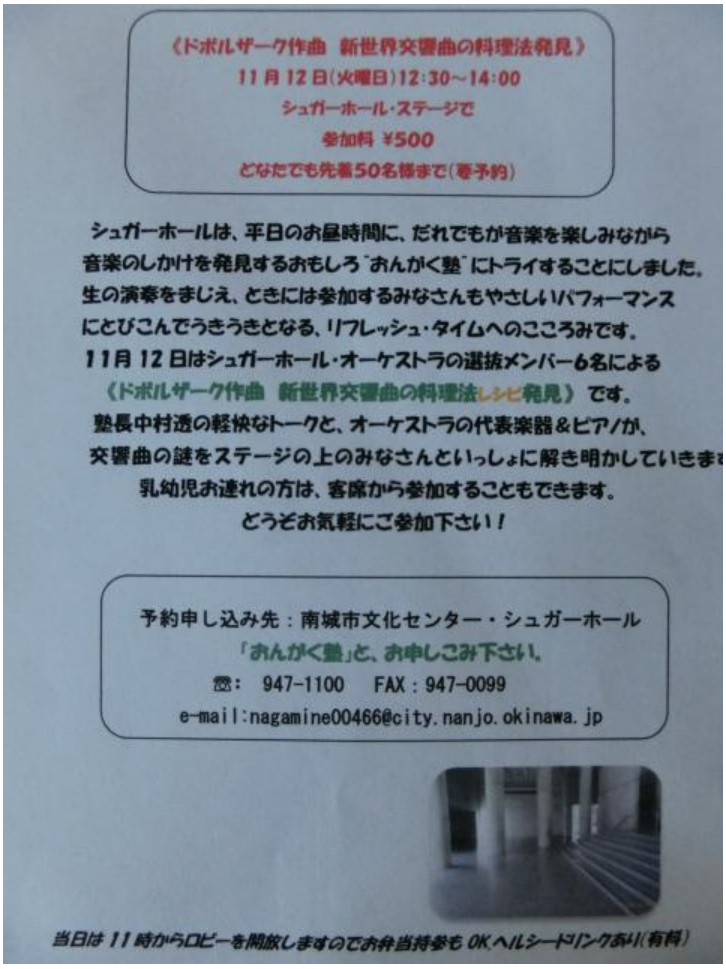
　２７日午後、ほぼ年に一回の会を開く。特徴を並べよう。
・毎年、新たな顔ぶれ。
・当初参加予定のかたは、いずれも来られず、前日までの参加連絡にはなかったお二人、しかも男性たちがこられ、人生後半期の会になった。
・参加したいが、スケジュールの都合などで来られな

い人たくさんから御連絡をいただいた。平日昼間は難しいようだ。でも、声をかけてくださるので、ありがたい。
・まさにユンタク会。３時間のおしゃべり。話題はまさにあちこちへ。
・４０年ぶりの再会。変わりの少ない所と、大いに変わったところ。
・庭の木々。ヤンバルと南部の違い。同じものでも、違いが大きい。シーカーサー、サンダンカ、フウリンブッソウゲ、タマリュウなど。土の違いは大きい。
・この時期、毎年と言っていいほど、本土から沖縄旅行に来られる人がいるが、今年はおられなかった。

次は、どんなになるだろうか。御提案など大歓迎

すごく気楽でとびっきりやさしいオーケストラ鑑賞入門塾　シュガーホールにて

１０月２０日



１１月１２日昼の企画です。詳しくは、写真をご覧ください。

昨年から始めたシュガーホールのオーケストラ企画の一環です。楽器にさわった事もないし、オーケストラを聴いたこともないと言った人が対象です。これを機会に、オーケストラを聴いてみようかな、という気分になるはずです。

これまで､南城市内の中学２年生全員を相手に、クラスごとに実施してきたものです。私も一度参観しました。これを、中学生だけのものにするのはもったいないから､大人向けにもしてみたらと、シュガーホール芸術監督の中村透さんに声をかけてみました。

それがきっかけになったかどうかは分かりませんが、この企画が誕生しました。

昼間ですが、勤務している方も年休をとって参加したくなるような企画です。中味は、３０００円相当だと、私は思いますが、５００円です。

半島芸術祭 in 南城

１１月２２日

１９日、第６回半島芸術祭 in 南城に出かける。第１回、２回は、我が家も参加したが、その後は休憩だ。今年は、中心メンバーが当初のころと大きく変わって、出店している工芸作家である当事者たちが推進しているよう

だ。

まず、がんじゅう駅と、その隣に１１月にできたばかり南城市地域物産館にでかけ、案内 MAP をいただく。

物産館はなかなか立派だ。みてまわる。私の「沖縄田舎暮らし」「沖縄おこし人生おこしの教育」まで並べてあるので、少々恥ずかしい。がんじゅう駅と並んで、今後の南城市のまちおこしの重要な拠点になっていくことだろう。観光客でにぎわっている。

２階の食堂「せーふぁキッチン」で昼食。いうまでもなく、絶景。

その後、まずは、長いつきあいのアマム。斎場御嶽へのアクセスが大変化した。アマムの前を歩いていく人が増えて、アマム訪問者は増えたようだ。

４６か所にものぼる会場のほとんどは、これまでに訪問したことがあるので、数カ所の未訪問のところをまわる。

新訪問として、まず「むっしゅ」。何度も訪れた「ポランの広場」の先にある。二人の女性がヤチムンと紅型をしている。ふくろう収集家の私は、可愛いぬいぐるみ風のふくろうを購入。「あさのみ工房」作品。

その後、佐敷の小谷へ。「とうき家～春壽」へ。以前、クラフト市で出会い、マグカップを購入して愛用している。北中城から小谷へ移転されたということで、いつか訪問したい、と思っていた。小谷集落の前の道路は頻繁に通るが、集落へ入るのは始めて。丘の急傾斜の途中にある。

とうき家ではいろいろとユンタク。超立派なシーサーがたくさん居並ぶ。そのかたわらに、これまた可愛いふくろう。しかも、笛になっている。フクロウの声が聞けるのだ。これが、私のふくろうコレクションの第４０号だ。

そこで、「小谷（うくく）マーイ」のガイドをいただく。それを見ながら回る。集落のガイドブックがあるというのは素晴らしいことだ。写真は、石畳道。

小谷のもう一カ所の未訪問「そめおり工房　小谷舎」を尋ねる。立派な作品が並ぶ。恵美子が一点購入。

最後は、旧知の型染「のんとみ工房」を訪問し、長いつきあいの友人たちとの長時間ユンタクをする。この作品は、芸術そのものだ。しかも、高度だ。それもそのはず、元県立芸大の先生だ。簡単に買うことはできない。買うとしても、数百万円以上の価値だろう。ともかく美しい。穴場の場所なので、訪問者は少ないが、無料で見学できるというのは、異例のもてなしだ。今年の作品は、宮古島をモチーフにしたものがいくつかある。私は「宮古島を高貴にした雰囲気」とコメント。

今週から来週にかけては、行事の目白押しで忙しいうえに、授業・ワークショップ・会議も多くて大変だ。でも、楽しみたいものだ。

仲村一夫さん宅 山川晃さん宅 南城市

オープンガーデン１　　１１月２７日

全２１か所のうち、前回までに訪問していない７ケ所を回る。これで、開催中のところを全部回ったことになる。今回の７ケ所訪問を何回かにわけて報告しよう。

まず２３日、岬公園でハーブフェスティバルを見たあと、徒歩で国道３３１号線をえんえんと歩く。知念字知念の仲村一夫さん宅に到着。車で行くのとは、感じが異なる。

仲村さん宅は、海岸から畑を隔てて数十メートル上った、太平洋を見下ろす絶好の場に３年前に新築されたそうだ。我が家に似た位置だが、一軒一軒が海を見渡す景観が異なるのが、このあたりの趣だ。正面には久高島。和風建物と洋風建物が対になっている。建物もガーデンも、新鮮さを感じる。

訪問後も徒歩を開始。帽子をかぶっていなかったのを心配された仲村さんの奥さまから帽子を渡された。こんなつながりが嬉しい。字知念の海岸道路沿いを歩く。途中で、ヤンバルからスクガー遺跡訪問に来られた方から道案内を求められた。新聞記事をご覧になっての訪問だそうだ。一度訪問経験があるので、行き方を話した。

徒歩散策はさらに続き、具志堅まできたが、一万歩を遥かに超えたので、恵美子に迎えてもらった。気分が最高のウォーキングだった。

当初予定の２５日は、竜巻もどきの突風と雨天で出かけるのをやめ、２６日に残り６ケ所を回る。

まず、仲村渠の山川晃さん宅。ここも太平洋を見下ろす絶景地。実は１０年前、土地探しをしていたころ、仲村渠も有力候補地の一つだった。

朝一番の訪問だったためか、御当主不在のまま、拝見だけさせていただいた。ユンタク好きな私としては、次の機会に託すことにしよう。オープンガーデンの醍醐味の一つは、そこでガーデンをエンジョイしながら暮らしておられる方とユンタクすることだ。

志喜屋新孝さん宅　瀬底真守さん宅　新垣嗣亀さん宅　南城市オープンガーデン２

１１月２９日

志喜屋・瀬底宅は、つきしろの台地・畑から、旧知念村志喜屋集落へと下り始める絶好スポットにある。

前回見つけそこねて訪問出来ていなかったが、今回も失敗しそうだった。ぐるぐる回ってようやくたどり着いた。広い畑地の間に置かれている矢印が風で曲がったりしていることが失敗のもとだったようだ。

まず志喜屋宅（右写真）。第一印象「亜熱帯林」。広い敷地の傾斜面全体が森になっている。森の隙間からは、志喜屋集落、志喜屋漁港、そして太平洋がのぞめる。私が大好きなタイプだ。

散策していると、清掃している人がいる。何と御当主さんだ。ちょっとユンタク。共通の知人の話。ガーデン作りの話などなど。

志喜屋さんの隣が瀬底宅（左写真）だ。対照的に広々とした芝生を軸にしたガーデン作り。それに太平洋の景観がセットになる。

次は、新垣嗣亀宅。国道３３１号線沿いの知名在。立派な庭だ。京都の庭園を研究されて、参考にしてお

造りになったようだ。御当主が丁寧に説明してくださる。話がはずんで、わざわざ庭鑑賞の絶好地点である屋上まで案内してくださる。写真は、屋上から見た庭。

ふと、御当主の服に「日建商事」のネーム刺繍があるのに気づく。我が家の土地購入の際にお世話していただいた不動産屋さんの名前だ。尋ねると、やっぱりそうだ。その時の社長さんであることがわかる。それから、ユンタクがはずむ。

新垣嗣亀さん宅（続）　伊集盛貞さん宅　大城勇さん宅　南城市オープンガーデン３

１１月３０日

前回紹介した新垣嗣亀さん宅では、いろいろとユンタクがはずんだ。またもや、共通の知人の話も出た。私も１０年近くこの地に住んだためか、地元の人との間に共通の知人がいるのが、ごく普通になった。

そして、新垣さんの会社のお世話で購入した我が家の土地のその後の紹介として、私の「沖縄田舎暮らし」の本を贈呈した。新垣さんからは、サンゴサボテンとグランドカバープランツ（名称不明）をいっぱいいただいた。

新垣さん宅では、立派に育ったインドナツメ（写真）を見た。６年たつとのことだ。我が家は昨年植えたばかりだ。しっかりした棚をつくらなくてはならないと思う。ガーデンを見て回ると、我が家の庭畑管理の知恵が得られるのもいい。

次は、国道３３１号線沿い海野・久原（どちらだったか忘れた）にある伊集盛貞さん宅だ。ここも立派に美しく造られている。中城湾とスクナムイを借景に広々とした雰囲気だ。

花もまた美しい。ゆずの木が、たくさんの実を色づかせている。

いよいよ最後の７番目（総計で２１番目）の訪問先は、糸数の大城勇さん宅だ。

とても立派なお庭だが、なんといっても、樹齢数百年という、立派で巨大クルチの存在感に圧倒される。

今回訪問した７軒のお宅は、なぜか私と同世代、または先輩の男性の活躍で造園されたガーデンばかりだった。女性がつくると花が多くなる傾向がありそうだが、男性がつくると木々と岩が多くなるようだ。とはいっても、夫婦共同で作庭されているお宅も多く、男女双方の味を出されている庭も多い。

楽しい訪問で、気分爽快になる。

帰ってから、我が庭を面白くするにはどうしたらいいかの、アイデアが膨らんでくる。といっても、我が庭をオープンガーデンにするには、水準が違い過ぎるのだが。

２０１４年

東風平の古民家「懐かしい音楽と食事の店　言　ＧＥＮ」　２月１９日

１８日、誘われて出掛ける。築５０年の古民家。国道５０７の東風平小学校近くから、案内板に沿って１分ほどの集落の真ん中。

美味しい料理。私は魚汁。他にカレー、ピザなど。値段が安い。

一番は、庶民的な品を感じさせる風情があるところだ。「通」の女性が集まりそうな雰囲気。開店して７ケ月。

２０世紀初頭の蓄音機・蝋管蓄音機がある。今回は、それを使って鳴らせた音をＣＤにしたものが流れている。

この機械は、手巻きで５分演奏というすごい年代物だ。博物館でしか見られないものが置かれている。

建物の前には、ログハウス。岐阜県産のキットを家族皆で組み立てたそうだ。夏涼しく冬温かく快適だとのこと。手づくりなので、安い。我が家でも作りたい気分になる。

写真は、店の建物全景（右）とログハウス内部（左）

スケジュールが込み合うこのごろ　３月２日

２月後半から３月前半は、ここ数年で一番忙しい日々になってきた。以前からの予定ではなく、急に入ってきたものが多い。

芸大授業、三島わかな単行本批評会、尚巴志マスタープラン作成委員会のことは、すでにブログ記事にした。加えて、こんな日程が入ってきた。

２月２７日　合同研究会「東アジアにおける近現代音楽文化の諸相」

３月１日　尚巴志のまちづくりを考える円卓会議
　　１日　磯崎主佳展　ギャラリートーク＆大池功ライブ
　　２日　卓球試合
　　３日　講演会「指定管理者委託の現状―公共文化施設を中心に
　　４日　同上勉強会
　　５日　シュガーホール第二期計画の市長への答申書提出
　　８日　川平朝申研究会と藤原幸雄最終講義
　　・・・・・

こんなに予定が入るのは、本当に久しぶりだ。こういう日程で学んだこと考えたことなどをブログ記事にしてきたが、今回ばかりは情報量大と時間不足のため、いくつかに絞らなくてはならない。

まず、２月２７日の合同研究会「東アジアにおける近現代音楽文化の諸相」のことを少し書こう。
三島さんの単行本についての報告に加えて、貴志俊彦「東アジア・ポピュラー音楽史の捉え方」、久万田晋「戦後沖縄の音楽芸能界の状況」の３本が報告され、質疑応答もあり、予定の３時間がさらに１時間も延長する中身の濃いものだった。研究者として油に乗った人ばかりの報告で、勢いに圧倒された。中身が興味深いものであるだけでなく、質疑もよかった。私の出番はなかった。もっぱら吸収するばかりだった。
音楽は、これまでの歴史研究の世界では見かけることが多いというものではないが、人々の感情・考え・行動などが深くかかわるだけに、これまでの歴史研究にはない鋭い問題構造を提示するようだ。私なりに関心を持ち続けたい。

沖リハ言語聴覚学科謝恩会　難関を乗り越えた多世代卒業生　　３月１１日

１０日夜開かれた謝恩会に、久々に参加。２年前の私の授業で大活躍した面々と再会。
言語聴覚士への道はなかなか難関だ。進級さえ難関になるほど、卒業・国家試験合格という壁はかなり高い。それは、かなり高度な専門職に向けての学習をしなくてはならないからだ。それを見事に突破した面々だ。
この学年に限らないが、社会人入学生が多いのが、ひとつの特徴で、１８歳入学者は半数いるかいないかだ。大卒―会社務め―退職のかたも多い。やりがいのある仕事を求めて、新たな人生へと踏み込む人が多いのだ。４０代の人も珍しくない。
だが、やりがいがあるし、資格をとれば、就職は売り手市場だ。今回の卒業生もほぼ決定のようだ。
難関突破を指導する先生方も大変な苦労だ。その指導の労苦の積み重ねをもとに、卒業までにこぎつけた喜びが、ビンビン伝わってくる。

２時間、彼らと楽しく語り合う。授業のことだけでなく、我が家で飲み会をしたことなども。物語が多い学年だ。
最後に、多世代の卒業生全員でのダンスがすごかった。カメラ持参を忘れたので、残念なことをした。「エッ・・・そんなに踊れるの！」と驚きの連続だった。
３０代４０代の方々に、なぜか初々しさを感じてしまった。２０代の刺激が大きかったのだろう。他方、２０代に入ったばかりの卒業生も、とてもしっかりしている。４０代の刺激が大きかったのだろう。２年前には、両者の間に多少あった遠慮というか距離が、すっかり縮まってしまい、ハーモニーを作り出している。

新しい人生創造に踏み込んでいる彼らを祝福し、今後に期待したい。こうした創造的な生き方がもっと広がればいいのに、と思う。

いつかの再会を楽しみにしたい。もしかすると、クライエントになった私との出会いかもしれない。

うん十年ぶりの旧友たちの訪問　久高訪問

３月１５日

１２日から三日間、旧友たちと娘夫婦が我が家に滞在した。いろいろと語り合い、近くをまわった。久高島も訪問。

大きな木が、そのまま拝所になっている。

知り合いから車を借りて、久高島の海岸をまわる。何度来ても、美しさに感動。久々に、北端のカベール岬に来る。

毎月、マッサージをしてもらっている具志堅さんの奥さまは久高出身だが、生まれ育った島で民宿「ちばい小」を開いておられる。訪問する。蘭など、美しい花がいっぱいだ。

夜は､旧友とたくさん語る｡久々に酔うほどに飲む｡中学高校時代を思い出すのは、何年ぶりか。私はすっかり忘れているのに、かれはよく覚えている。その後の人生、これからの人生も含めて、話題はあちこちする。私たちは、かなりドラマティックな青春時代を送ったようだ。

学校時代を過ごした所から遠く離れており、近くに当時の友が全くいないこともあって、同窓会などへの出席率は限りなくゼロに近い私なので、こんな機会は滅多にない。しかし、退職世代なので、今回のように我が家を訪問する旧友が増えるかもしれない。

来訪者が多いこのごろ　３月２４日

３月中下旬は、来訪者が多い。毎年のことなので、そういう季節かなと思う。久しぶりに会う人が多い。並べてみよう。
先日も触れた、愛知からの一行。事実上５０年ぶりの再会
県立芸大の授業の最後のまとめ会
恵美子の同窓仲間
私の３５年前の卒業生

私たちの年齢にふさわしくか、昼間の出会いがほとんど。庭畑散策、近隣散策、そしてハーブティーやコーヒーを飲む。「宴会」「飲み会」は稀になった。
散策では、海岸散策が多い。だが、私の卒業生とはタマグスク周辺までの長距離を歩く。
斉場御嶽を希望される方がいるが、最近の込み具合などをお話しして、濱川御嶽・ヤハラヅカサやタマグスクにお連れすることが多い。静かで聖なる空気を深く感じることができるので、印象深いようだ。

寄せられた感想を並べてみよう。
「玉城のお宅の佇まいは、そのご努力の成果が見事に結晶した金字塔のように思われます。」
「愛情をかけられて育ったお庭の木々や草花や、そして、３階から見わたす眺望に、心が解放されました。
先生のお庭では、少しずつ移り変わる「沖縄の季節感」を感じることができるんだな.... と、思いました。」
「帰りの車で、浅野家に魂を忘れてきたみたいねと言われましたが、先生のお宅は小宇宙で、手も足も心ものびの～びしてしまい、本当は帰りたくなかったです。ハーブのお土産もありがとうございました。」

いつものことだが、我が庭畑産のハーブと、「老前整理」をしている著作物などをお土産に差し上げるこのごろだが、こんな感想を寄せられて、うれしく思う。ほめすぎだとは思うが。
「オープンガーデンしないの？」と尋ねられる。オープンガーデンの庭とは格段にレベルが低い。もしやるとしても、１０日間も対応できない。庭へ入る通路とか、庭畑の中の通路をはじめ、受け入れられるような整備もできていない。
これまでも、年１回ぐらいのペースでしてきた３～４時間の「お茶会」をするのがちょうどいいだろう。

近藤ひろみさん新居でアフリカ音楽演奏会　３月３０日

２８日夜、完成１年の近藤ひろみさんの新居で、アフリカ音楽演奏会があった。タンザニア夕食付２０００円の超安価で、ホームパーティー式だ。近藤さんの演奏に続いて、これまたプロ演奏家の〇〇さん（お名

前をメモするのを忘れて申し訳ない）の演奏。

近藤さん宅は、我が家から徒歩１０分で、私の散歩コースの一つ。「玉城文化村」の一角のセンス溢れる木造。アフリカ沖縄演奏会にハーモニーを醸し出す。

食事は、近藤さんたちの手作り。ボリュームたっぷり。手で食べると、より一層おいしいとのことだが、慣れないので箸で食べる。飲み物も何種類か選べるが、私は初体験のタマリンドジュースをいただく。

音楽は、カリンバと歌によるタンザニアのものが中心だ。

生活感覚たっぷりのものだ。聴衆の存在が前提のプロ演奏だが、現地集落の生活感あふれるものだ。坐ってカリンバを地面に近づけて演奏するのは、大地を共鳴箱にするためだ、という話は面白い。

暖かくゆったり流れるような音楽だ。そうしたある曲は、実は、飼育している牛をライオンに食べられた悲しみを歌っているものだと聞いてびっくり。

最後に、会場を三つに分けて、それぞれが、「オーッ」「オーッ」「エーッ、エ」という掛け声をずらしながら掛け合い、ハーモニーを作り出すことをした。

かつて小泉文夫さんの講演で、アフリカのハーモニーの話をきいたことを思い出した。

また、全体に流れるような穏やかなもので、１／２拍子，１／４拍子といったものではくくれない進行のものが多かった。洋楽が入ってきたとき、沖縄音楽がそうしたものではくくりにくいことが表明されたが、それと同じようなものかな、と思った。

ところで、参加者は、東京などの大都市から移住してきた方が多いのが、一つの特徴だった。もともとの沖縄の人とは、異なる受け止め方異なる雰囲気を感じた。こんな違いも演奏者と会場との音楽共同創造に異なる味を出すように思った。

平川節子さんのトシビー祝　　６月１８日

※写真は當間文信さん撮影

１４日に開かれた会には、１００人も集まった。家族、かつての教え子たち（宮城中学校で、現在６０代に入っている方々）、マングローブＥＥクラブの方々など。私たち１９７０年代８０年代の沖生研メンバーたちも集った。

会最初のかぎやで風を本人が踊り、記念冊子のタイトルは「なまからどー」（写真）で、意気軒昂たるものだ。２０代に初めてお会いしたときと変わらない。「なまから」何をなさるのか、またまた期待は膨らむ。

記念冊子「なまからどー」に、私は、平川節子さんに

ついての文を寄せた。一部を紹介しよう。

自分で、自分たちで、創造的に考え動く人
幸せを創り、共有し合う人
周りの人を愛し信じ語り合い動きあう人　権威主義が全然ない人
人をやる気にさせる人　盛り立てる人
びっくりさせる人　びっくりすることを励まし、一緒にする人
表現豊かな人　雰囲気をつくる人　記憶に焼き付けられる人

乾杯の音頭を、１００％ウチナーグチでした當間文信さんは「ドラゴンフルーツ栽培」の肩書の名刺通りの活躍。教員退職後、自動車学校の経営、そしてドラゴンフルーツ栽培と、ドラマがどんどん広がる。

参加者の大半が私流にいうと、人生後半期の人たちだ。「引退」気味のかたもおられるが、新たな人生創造の途中におられる方が大半で、平川節子さん同様、意気軒昂たるものだ。

こうした会は、長寿を祝う雰囲気に包まれ気味だが、今回は、人生ドラマ創造の雰囲気に包まれた。平川さんのパーソナリティを反映していると同時に、これからのこうした会のありようを開拓的に提起しているようにも思われる。

恵美子と、「私たちの時はどんな風にしようか」「結婚５０年記念もいいな」などと会話。さてどうなることやら。

看護大学学生の我が家と御嶽訪問　　７月４日

３日昼、６月まで受講していた２年生が、授業の合間に我が家を訪問。

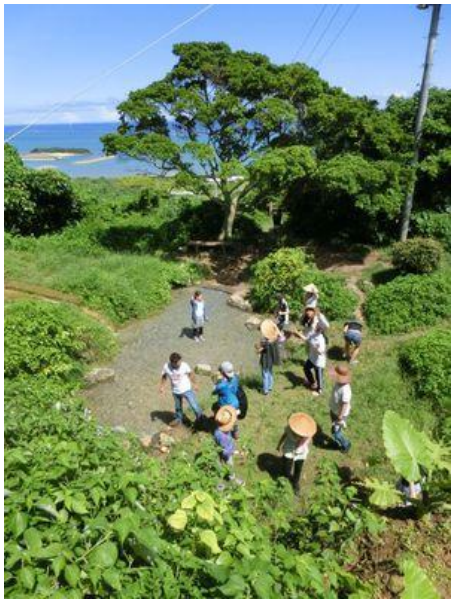
受講していなかった人含めて１５名が参加。持参してきた昼食と畑散策の後、近隣の御嶽等を周る。いってみたいという学生が多かったのだ。

ヤハラヅカサ（左下写真）→潮花司→濱川御嶽→仲村渠樋川横→垣花グスク（右写真）→垣花樋川（右下写真）

時間の都合で、予定していたタマグスクは次の機会にしたものが。

１～３時という、真夏のサイコーに暑い時間帯なのに、みんな元気よく歩く。さすが看大生。みんなとても健康だ。身体だけでなく心も健康だ。とてもいい学生たちだ。これからの看護をよろしく。

だが、まちなかで育った人が多く、



自然のなかのこのコースのような場が初体験という人が多いのに驚いた。祈り体験というより自然体験の散策となった感じだ。

我が家のハーブティー・パッションフルーツも楽しんでくれた。古本をもらってくれた人も何人かいた。

台風襲来　訪問した海外からの家族の初体験　　７月１０日

トロント時代前後から交流のある家族が我が家に滞在。台風襲来で飛行機が飛ばず、予定を越えて滞在。台風体験が一生の「思い出」になるかもしれない。

台風襲来前にいろいろとする。海岸散策のつもりが、泳ぐ。中山海岸で泳ぐのは珍しい？

そして久高島訪問。子どもたちはすぐに泳ぐことに関心がいく。後になってから日焼けで痛いと叫ぶが、時すでに遅し。

朝、玉城小学校の読み聞かせに参加。母子が英語と日本語で読み聞かせ。玉小の子どもたちはびっくりしたことだろう。

その後、美ら海水族館へ。はじめは「水族館なんてつまらないから行きたくない」といっていた子どもも、大水槽とジンベイザメやマンタに圧倒される。沖ちゃん劇場でスプラッシュを浴びてびしょ濡れに。最後は帰りたくなさそうになる。私は、台風対策で急いで帰りたいのだが。

台風に閉じ込められ、しかも停電。それでも子どもたちは何かと遊びを見つけ作り楽しんだようだ。

９日昼の便にキャンセル待ちで搭乗。

今週末の生活指導学会での沖縄関係者の発表一覧　　８月２６日

いよいよ２９～３１日の日本生活指導学会が近づいてきた。準備メンバーの一人である私も、準備作業に入っている。

ここで、発表テーマの詳細も出そろったので、あらためて沖縄関係者の発表一覧を紹介しよう。

大会は、だれでも参加できる。参加費が３０００円（学生２０００円）と少し高いかもしれないが、それだけ学ぶことが多いと思う。場所は沖縄大学。

８月２９日（金）１５～１８時　課題研究Ａ　青年期生活指導実践――他者と共に生きることの学び
報告者　喜瀬斗志也（南城市職員）　　「南城市における若者の現状について」
　　打越正行（社会理論・同体研究所研究員）　「暴力を統制する――沖縄の下層若者の生活実践から――」
コメンテイター　浅野誠

８月２９日（金）１５～１８時　課題研究Ｂ　子どもの生活世界と生活指導――「自己形成」の基盤の回復への支援をどうすすめるか――

報告者　船越裕和（小学校教諭）　「子ども世界を取り戻すために　何度失敗しても大丈夫」
　　金城綾子（沖縄女子学園）　「少年が社会生活に適応していくために必要な指導について」

８月３０日（土）９時～１０時２５分　自由研究発表
浅野誠　　「地域起こしと人生創造――沖縄県南城市の事例をもとに――」

武藤杜夫（沖縄少年院）　「沖縄少年院における再入者指導（グループワーク）について　～非行少年の本音に寄り添う「共育」の場つくり
コメンテイター　仲嶺正光（富山大学）

８月３０日（土）１４時～１７時３０分　全体会　　変容する＜生活＞の実相をみつめる――歴史的転換期における「生活変容」への生活指導論的アプローチの試み――
報告者　喜屋武幸（中学校教諭）　「国策に翻弄される地域の生活と教育　～新基地問題に揺れる辺野古の苦悩と葛藤～」

８月３１日（日）９時～１２時　課題研究Ｃ　地方に生きる若者のリスク――貧困・暴力・地域からのサンクション
報告者　上間陽子（琉球大学）　「地方に生きる若者のリスク」

８月３１日（日）９時～１２時　課題研究Ｄ　困難な課題を抱える少年の自立支援指導にかかわる少年鑑別所と児童自立支援施設との連携の在り方について
報告者　宇都宮敦浩（那覇少年鑑別所）　「非行少年への自立支援　少年鑑別所ができること（児童自立支援施設との連携

いま、『協同』が創る２０１４年協同集会 in 沖縄　　１０月２１日

１９日に、タイトルで示した集会が名桜大学で開かれた。加藤彰彦さんから御案内をいただいて参加した。集会の中心は、労働者協同組合・ワーカーズコープであるが、世界各地で展開されているこの動きが、日本でも１９９０年代から広がり始めた。沖縄にもその動きがあることを数年前に知ったが、関係者の話を直接聴くのは初めてだ。

集会の中身は、多様な「協同」の動きの紹介に加えて、集会のキャッチフレーズでもある「命どぅ宝」にかかわった平和・基地問題、若者の問題などすごく広く盛りだくさんだ。充実しているが、たくさん過ぎて、私は過剰摂取状態になった。

印象的なことをいくつか紹介しよう。

パネルディスカッション１での平良朝敬（かりゆしグループＣＥＯ）の発言。

○　観光トレンドの変化　　観光（視覚　物見遊山）　→　感幸（五感　体感・体験）　→　歓交（交流　地域や住民との交流）

○　沖縄の地理的優位性は、軍事的優位　から　経済的優位へ

抑止力は、軍事的抑止力　から　交流と物流へ（アジアの交差点）

観光の変化展開については私と意見一致だ。また、沖縄で、人々が交流し物流が盛んになることで、「抑止力」が生まれるという視点は、注目できる。

※　最後のリレートークで、高校生が、カジノつまりギャンブルで観光客をよぶのではなく、沖縄がもつ魅力で観光客を呼ぶのだ、という発言も説得力があった。

沖縄のワーカーズコープで中心的に活躍しているのは、各地にある「配彩」というお弁当を高齢者に届けている組織だが、その弁当を昼ごはんに食べた。胃酸を完全にストップしている私も、美味しく、かつガス発生ゼロで楽しめた。

映画とリレートークで、ワーカーズコープ、そして類似の協同の多様な展開が紹介された。

「配彩」

地域若者サポートステーション

熱帯果樹園

肝高の阿麻和利関連の取り組み

豆腐つくり

これらが仕事作りとして展開している点も興味深い。学童クラブとかフリースクールとか、子ども若者対象の取り組みもありそうだ。

最後の大学生高校生のリレートークも、新鮮な語りで面白かった。

７時間近くの盛りだくさんの内容、そして名護往復の運転で、帰ってぐったりした。

写真１　開会行事での保育園生による獅子舞

写真２　パネルディスカッション１

写真３　肝高の阿麻和利で活躍する蔵當さんの踊

西原時代の旧知の方の来訪　　１２月２４日

先週末から、久しぶりとか初めてとかの出会いが多い。３０年前の西原小波津団地の近隣の方が、我が家を探して訪問なさった。先週末の沖縄の日生連でのワークショップは、初対面の方が多かった。日曜日の保育についての会合も初対面の方が何人かおられた。そんな出会いを楽しむ時期だ。

年末年始には、毎年、久しぶりの来訪者が多い。県内だけでなく県外各地から来られる。さて、どんな出会い・再会があるだろうか。楽しみだ。

今回の出会いで登場した話をいくつか紹介しよう。

・ハブよけには、猫がいいとのこと。猫がいると、ハブを人間より先に探知するらしい。ハブを見つけて、居場所を探すには、犬がいいとのこと。臭いを教えて追跡するのだそうだ。

我が敷地は、野良猫の通り道だ。数年前には、床下で出産子育てまであった。これまでは追い払っていたが、少しは親切にしようかな、と思う。

・オープンガーデンなどの企画には、泥棒さんも「訪問」するらしいが、泥棒さんよけには、犬が一番いいとのことだ。

・村起こしで、住民自らからアイデアを出して、どんどん行動する中部の事例をお聴きした。面白いから、いろいろな地域を訪問する小旅行もいいと思う。

３０～４０年会っていない旧友訪問もいいアイデアだ。

・保育園に新しい名前を付けるのは、なかなか大変なようだ。というのは、すでにある名前とダブってしまうからだ。たんぽぽ、ひまわり、デイゴ、菊、どんぐり、なのはな、パンダ、くじら、いるかなど、子どもが好きそうな動植物の名前の保育園は、あちこちにある。

私が浮かんだ名前は、サトウキビとかウージ。でも子どもが好きそうでない。そこで、ウージのファ（サトウキビっこ）というのが浮かんだ。こういうのは、時間をかけて、楽しみながら思いつくものだろう。

１０年前、「光・風・森の家」などと、我が家のニックネームをいろいろと考えたのだが、結局、いいのが見つからなかった。

２０１５年

加藤彰彦先生＆吉葉研司先生　トークセッション＆送別会　３月９日

５時間に及ぶ長時間の集まりに出た。

普通の送別会とは違い、中味が濃い会だった。

前半のトークセッションは、対談形式で、お二人の生育歴から始まって沖縄生活にいたるまでの、相互インタビュー形式だった。年齢上私に近い加藤さんと、２回り若い吉葉さんとの違いがなかなか面白い。加藤さんの引き出し方が、さすがと感じる。

後半には、いろいろな方の話を聴くとともに、多様な出会い・再会があった。

いくつかの感想を書こう。

加藤さんが野本三吉さんであることを多くの人が知らずにつきあってきたエピソードは面白い。私もしばしはそうだったが。かれは、１０年余りの沖縄在住中に信じがたいほど多くのことをなされた。福祉・子ども・教育などの分野の多様な問題を明らかにし、また多様な人々を結びつけ、多様な物語を表に出すだけでなく物語を作るきっかけをおつくりになった。あまりにも働きすぎて、ドクターストップがかかったわけだ。ストップがかかっても、なお奮闘されるところは、私などが及びもしない世界だ。

いろいろと活躍された場所でのことが、すぐに文章になるのが、特徴でもある。文章にとどまらず、運動になることも多い。春には、横浜に帰られるということだが、まだ何年も往復が続きそうな予感がする。かれに火をつけられた沖縄の人は多い。

吉葉さんは、１０年余りの琉球大学勤務の後、これから愛知の私立大学にお移りになる。私と似ている。そういえば、照本さんもそうだ。私は、再び沖縄に戻り、Ｎターンになったわけだが、お二人はどうなるだろうか。吉葉さんも行動の人だ。この後、愛知ではどんな活躍をなさるのかな。関心と期待をもつ。

参加者との出会い・語らいも楽しかった。保育・学童保育を中心とする集まりであり、長い歴史を持つ人々、若々しくこれからの創造に期待できる人、さまざまだ。それにしても、みなさんのエネルギーには驚かせられる。５時間もいたのだが、疲れを感じずに、その晩はぐっすりと眠れた。

沖リハ言語聴覚学科謝恩会　３月１０日

８日の晩は、沖リハ言語聴覚学科卒業生による謝恩会。とても盛り上がった。

大変苦労した学習の積み上げで卒業にこぎつけた１８名の学生たちが主催し、先生方が招待された。私たちも非常勤講師だが、学生たちとのいろいろなかかわりが深くて、出席した。

大変に練られた企画進行で、充実した３時間だった。これほどのものには滅多に出会わないだろう。

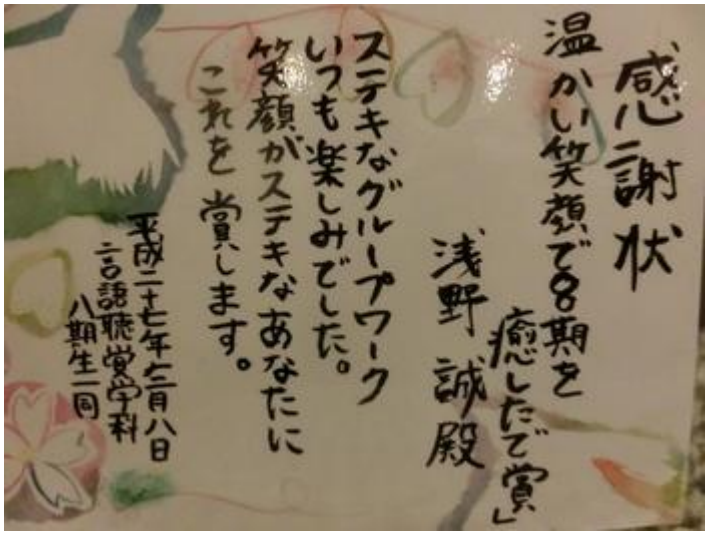
女子学生のダンス、男子学生の組体操（上写真）、全員参加のフォークダンス、すごい景品連続のビンゴ、そして深い挨拶・・・・・

みんな美しく輝いていた。

組体操を見るのは、何年ぶりか。フォークダンスをするのは、何十年ぶりか。

そして、とても嬉しい感謝状（下写真）をもらった。笑顔がいいなどとは、初めていただいた言葉だ。

ビンゴでは特別なティッシュペーパーと、タンブラーをいただいた。



先生方がぐんと若返って、学生たちと混じり合って、うんと盛り上がっていたのが印象的だ。創設して１０年がたち、新しい様相が見えてきた。卒業生二人が教師になって戻ってきている。

なぜか、しめの来賓あいさつをさせられたが、実に多様な学生たちが出会い、学び合い、励まし合い、そしてまさに「実学」を学び、卒業後はじつに重要な仕事を展開されていく。

実に頼もしい。

新人演奏会　沖展　保育所　卓球練習　来客　ここ数日のいろいろなこと 3月２５日

２１日からの数日、普段にはないいろいろな日程が入り込んだ。並べよう。

２１日　南風原高校の卓球部との練習。同卓球部をサポートしている卒業生が卓球仲間なので、彼から頼まれて参加。年齢四分の一の若々しい高校生と練習するのは結構楽しい。それに、実力が近いので、お互いに得だ。年に何回か、こんな練習があるのもいい、と思う。

２２日　近所の保育所が認可法人保育所になるので、その

理事に就任のための会議。地域奉仕の意味もある。そこで、新たな付き合いもはじまりそうだ。

２２日　シュガーホールの新人演奏会オーディション。日程の都合で、終了後のレセプションに付き合う。主催者や審査員、そして若手演奏家・伴走者など、少しずつだが、知り合いが増えていくから、耳学問の楽しみになる。

興味深かったのは審査員講評。さすが音楽家の話し方は、芸術的で個性的だ。論理性というよりは、講評をいかに芸術的に語るか、という雰囲気も漂う。

新人演奏家たちは、技術的には優れているが、それをさらに高めるためには、会場・聴衆とのコミュニケーション・やり取りをいかに豊かにするか、それが重要なのだ、という指摘に注目した。さらには、呼吸も、一つの呼吸ごとに、表現に結びついて変化させていくこと、体幹トレーニングが重要なことなど、かなり多様な注文が続出。なかなか面白い。

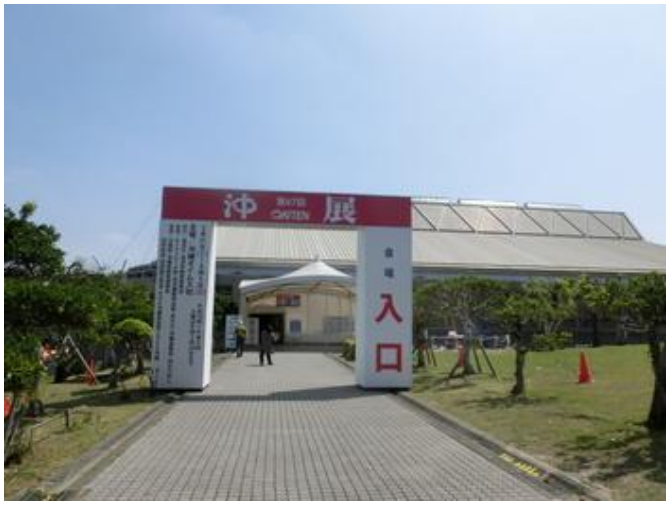
５月の発表会の演奏が楽しみだ。

２２日　客人の来訪。遠方にしばし移住なされるとのご挨拶もかねて。御健勝を祈る。

２３日　沖展見学。３年連続の鑑賞。知っているかたの展示が増えてきた。
ベテランの域に達している人のものは、ゴテゴテしているものを除き､すっきりと美しく深みをだしている、という印象だ。それは、絵画、彫刻、陶芸、染織、写真などの分野を越えて、共通している。

鑑賞後、２０数年ぶりに浦添城址に行く。かつては修復作業中だった浦添ようどれも見学。

浦添の町もずいぶん変わって、すっきりと美しくなった、という印象だ。



２４日　ワークショップシリーズ№.７の印刷が完成し、受け取る。

木曜日からは、息子家族がくるので、孫たちでにぎやかになりそうだ。
２０１４年度は、にぎわしく終わりつつある。

照屋盛豊さん宅　津波古義治さん宅　南城市オープンガーデン　　４月１８日

１８日からスタート。まずユインチホテルに行き、各会場をまわるパスポートを５００円で購入。

一覧を見る。会場はこれまでのように溢れるほどでは

ないが、見る価値のあるところ揃いだ。今年初披露で、私が訪問していないところを探す。親慶原の照屋盛豊さん宅一つだった。昨年１１月までにすべて回り終えてある私は、照屋さん宅訪問から始める。

照屋さん宅の隣は、卓球仲間のお住まい。しばらく練習に見えていないので、ご機嫌伺い。お元気そうだ。練習参加の声をかける。

照屋さん宅は、落ち着き垢抜けした感じで、上品にまとめられた庭園に、様々な花がちりばめられている。華やかだけど、穏やかな気分を提供してくれる。

これからは２回目以上の訪問となる。まず、同じ親慶原にあって、すぐ近くの津波古義治さん宅の再訪。ここは、初訪問の時に圧倒された。住宅の庭が完璧な森になっているからだ。

今回、ますます進化して、森の中にアクセントのきいた色どりが加わる。幹に着けられたランがまず目につく。芝生の正面につくられた拝所がいい。我が庭にもつくりたくなった。

まわっていると、我が庭とは水準が２回りも３回りも異なる。でも、参考にして、我が庭に導入したいものが多い。

次はどこを訪問しようかと、目移りしている。

スペインからの来客　　４月２４日

今週は、偶然のことだが、いろいろと来客がある。滅多にないことだ。

その最初は、５５年来の旧友が、スペインからの旅行者を同行した沖縄旅行の中で我が家などの訪問を企画してくれたことがある。

スペインでは、ほとんど沖縄のことが知られていないので、直接目に触れる機会を作りたいという趣旨だ。ヨーロッパからの日本への旅行者は、東京・京都などが中心になり、沖縄まで足を伸ばすことは稀だろう。かれらは、飛行機で沖縄まで３時間搭乗することに驚いたという。旅慣れ（実は、航空機関係で働いている）た彼らには、国内線で３時間の移動というのは想定外らしい。

旧友から、沖縄旅行プランの相談を受けた私は、近所の沖縄ガイドプロに相談した。彼らは、英語も堪能なので、英語の案内所の有無なども訪ねた。ヨーロッパ系の旅行者対応には、不慣れな沖縄観光界だ。

よく調べてくださって、平和祈念資料館などの英文パンフレットと、日本語英語の沖縄のわかりやすい案内書などを貸していただき、早速かれらに渡した。

結局、彼らには、沖縄の自然、歴史と文化（信仰とエイサーなどの舞踊）、戦争と基地などを中心におすすめした。そして、我が家周辺の歴史・文化・自然に出会う数時間をご一緒した。

スペインの方は、明るく陽気だ。沖縄とどことなく似ている面がある。

沖縄の庶民の舞踊を見たいとのことだったが、エイサーなどの時期でもないので、玉泉洞のエイサーショーにお連れした。大変に印象強かったようで、最後には、カチャーシーにも参加し、舞踊者と記念撮影などもされていた。

ここにある果樹園、そして我が家の果樹にも大変関心をもたれた。世界中を回っておられるので、そうした植物には関心が強いようだ。

我が家近くでは、ヤハラヅカサ・濱川御嶽・潮花御嶽、そしてタマグスクにお連れした。百名ビーチもとても気に入られたようだ。（写真は、そこで撮影した）

天候がよくない日が多かったが、他に北山城址・美ら海水族館・久高・平和祈念資料館などを回られたようだ。

ところで、日本人のスペイン認識はとても浅い。最近のスペインでの経済危機のことはよく知られているが、政治上とても興味深いことが進行している話は、私もまったく知らなかった。人々の政治参加など民主主義へのかかわりはとても強いようだ。

久しぶりの英会話だったが、以前よりさらに私の聞き取りが悪くなっていたのが残念だが、やむを得ないことだ。

ちょっぴり忙しくなってきたこのごろ　　４月２９日

先週、南城市史編集室の御一行が来られて、南城市史「民俗編」の執筆委員になることを正式に依頼される。ついでに、まとめ役も頼まれる。１０年計画の作業だ。市内の全字を対象に、聞き取り調査をベースにして、作業をすすめるとのこと。

私のこれからの１０年間の一つのテーマとして浮上しそうだ。聞き取りは、対象者の年齢から考えると、戦後のことが多くなりそうだが、前代未聞の事態のなかで生きてこられた方々の話を聴くことは、とてもやりがいのあることだ。

２６日は、字中山の共同作業。山の上から海岸近くまで、年２回の恒例行事で、朝６時から。近所の人たちとゆんたくしながら作業。

私が知らなかった道を教えていただいた。上の二枚の写真のように、最初は階段があるが、進んでいくと、草や倒木でふさがれている。今は通行する人がいないだろうが、かつて行き来した経験を聞いた。

もう一つ、相当の昔、かつての中山は今のグスクロードにかなり近いところにあったという話だが、そこに行く道が、いまでもわかるという。それを教えてもらうつもりだったが、作業進行が早くて、知らぬ間に通過してしまったようだ。

先週末には、１０年ぶりに出会う来客あり。偶然、沖縄に赴任することになったとのこと。ご夫妻で我が家を訪問。その折に、沖縄「学習」の意味も含めて、ヤハラヅカサ・潮花（スーパナ）御嶽・濱川御嶽・タマグスクを案内。写真は、潮花御嶽

クラフトフェア南城　　５月２日

４回目になる。南城市内だけでなく、南部一帯、さらには、那覇や中部一帯からもプロ工芸家が集まってくる。毎年見ているが、初めての出会いがいくつもある。顔なじみの工房も多い。

写真は、話し込んだ琉球花三島の親川唐白さんのコーナーを手前にして、多様なコーナーを写す。

親川さんからは、三島手の話をたくさん伺った。４００年の歴史があるとのことだが、現在本格的にやっているのは親川さんだけとのこと。

上左写真のものを購入。早速使用してみる。気分がいい。

長年付き合いがある方が、歌で会場を盛り上げている。右写真

我が隣人の紅型「創布」さんも出店。左写真

結婚パーティ・ラッシュ　　５月１０日

先週は、結婚お披露目夕食会と結婚式・披露宴と連続した。ここ数年なかったので、久しぶりのことだ。以前なら、年に数回はあったので、激変といえるだろう。理由は、１．偶然、２．私たちが年をとったので、年齢が近い世代のカップルがする結婚式に出る機会が激減したこと（結婚式は、やはり若い世代が中心であり、せいぜいその親世代までなのだ、ということを実感する）、３．最近、結婚式・披露宴をしないケースが多くなったこと、などが考えられる。

１９７０年代、１９８０年代の私は、結婚式演出に燃えていた。８０年代後半以降になると、仲人役、そして祝辞や乾杯の音頭役へと移っていった。そして、出席そのものが激減してきた。

沖縄の結婚式も様変わりに近いものを感じる。数百人が参加し、豊富な余興があり、カチャーシーで締めくくるスタイルが、だんだん懐かしくなってきた。

代わって、リゾートホテル型がふえてきたようだ。とってもおしゃれだ。

結婚の多様化も感じる。私たちの時にように、カップルのほとんどが２０代というのは少なく、年齢の多様化も激しい。式やパーティの多様化も著しい。画一化したものではなく、そのカップルにふさわしいものが行われている。「案内」状だけでは、どんな形なのか推理できないこともある。

それにしても、当日の久しぶりの再会、初めての出会いが多様にあるのが、また楽しい。今回の２つの会も、私個人にとっても、楽しい出会いが豊富にあった。子ども世代孫世代の成長をとても感じた。

また、一つの結婚式には、知人として参加したので、カップル以外のほとんどが初対面であり、新しい知人友人が生まれた。実に多様で豊かで人たちが溢れている。

そして、カップルの緊張と楽しさが入り混じったドラマティックな顔・仕草を拝見するのが楽しい。今後の人生ドラマが楽しみだ。

手作り感とドラマ性が溢れる結婚披露宴　　８月１２日

８日に私が出席した披露宴は、多くのドラマが溢れるものだった。

・沖縄と首都圏という遠距離をものともせず、仲立ちの方々の上手なサポートのなかで、ゴールインした。まさに、大人の結婚だ。４０年もいろいろと伴走してきたものとしての私の思いも沢山つまっている。

・新郎の父が、直前に急逝。迷いの末、あえて結婚式を行う。「天上で、父と母の新たな結婚式、地上で私たちの結婚式が並行して行われる」という新郎の言葉には、深い思い入れがつまっている。

・出し物は、「芭蕉布」ソロ歌唱だけだが、これまた思い入れが深い。何人かの方々の挨拶。長短コントラストをなす挨拶にも思い入れが溢れる。美言を連ねるよそ行きの挨拶ではなく、率直な気持ちを語るものだった。

・手作りがあちこちにある。

３時からという時間もあるが、ごちそうがいっぱいというわけではない。出されたものは、参加者の人たちが、まさに手作りで作ったものばかり。

各テーブルに上に置かれた折り鶴は、色違いのペアだ。

・４０年伴走してきたが、新婦のこんな笑顔は見たことがない。

・兄の感動の涙も、初めて見る。

いろいろな思いが詰まった披露宴だった。いつまでも記憶と気持ちのなかに残るだろう。

いろいろな出会い　このごろの私　　８月２４日

毎年、この時期は、何もなさそうで、結構いろいろとある。

まず、卒業生の来宅。８月の後半に休みを取り、他府県から沖縄旅行に来て、我が家に立ち寄るというパターンだ。今年も、その第一号が１８日に来宅した。カップルでこられたが、いろいろな労苦があったので、「癒し」を求めての訪問だった。我が家の雰囲気がいいらしい。ゆったりとし、海や植物などの自然との触れ合う。恵美子の三線を所望された。ついでにシンギングボウル演奏をプレゼント。

我が畑産の果物を召し上がっていただく。我が家訪問卒業生は、４０代もいるが、５０代が増えてきた。なかには６０代も出てきた。労苦も多いが、人生の味わいを感じるころだ。

金曜日には、ここに住み始めてからの付き合いが深い小川京子さんの個展見学。クバによるバスケットアート。このジャンルのプロは彼女一人だけだろう。今は宮古でアトリエを開いているが、年に何回もあちこちで個展を開いている。作品は、ますます高級感漂うものになってきている。今は、手に入りやすいが、そのうち希少価値が出てくることが予想される。

その後は、県立美術館で催されている「美術の先生がつくった作品展」を鑑賞する。知人の大池主佳さん、玉元雅江さんが出展している。大池主佳さんは、子ども時代の本人と大池さんを、定評のある落ち着いたメルヘンチックな感じで描く。玉元雅江さんは、我が子の赤ちゃん時代を大きなキャンバスに描いている。小さいころからよく知っているが、今近くの中学校に勤務しているとは知らなかった。

美術の先生たちだけあって、子ども・生徒に共感をよせる雰囲気が漂う。今時の学校は、ハイペースで大量処理の機械的な雰囲気さえ漂っている。そんな中で、美術の時間が、子ども生徒の世界を大きく変えつつ膨らませていく異色の存在だ。活躍を大いに期待したい。

テレビが数日間、故障して映らない。日ごろからテレビ視聴時間はとても短いのだが、それでも、テレビのない生活はとてもさっぱりとして、静かな時を与えてくれる。このままなしでもいいかなと思うぐらいだ。

金曜日には、近所のどんぐり保育園の理事会に出席。発足したばかりの４月前後は大変だったが、ようやく軌道に乗ってきた感じだ。でも、これから園舎の新築工事がある。玉城らしく、子どもたちが伸び伸びできる豊かなものになることを期待したい。